原子力産業新聞

発行所 日本原子力産業会議
東京都港区芝田村町1の1(東電ビル三階)
電話(59)6981—4
振替東京 5895
購読料
定価一部 20円
一年分前金 200円

日米原子力産業合同会議

日本側の要綱きまる

産業人の国際協力めざす

十二月四日の日本原子力産業会議第八回理事会で、来年五月十三日より一週間東京及び大阪で開かれる「日米原子力産業合同会議」の要綱が決定した。これは十二月中旬来日の米フォーラム事務総長チャールス・ロビンス氏に示す日本側の案で、同氏との話し合いで若干変更を見るかも知れないが、行事の中心たる会議、講演会などは次のとおりである。

経験と考察を発表

東南アジア若干の諸国に招請状を出す

日本原子力産業会議と米国原子力産業会議の共同主催で開かれるこの会議は、原子力の平和利用に関し、それぞれの立場で経験し考察したことについて話し合い、産業人の国際協力によって原子力の開発を促進することを目的としており、日本原子力産業会議の構成員と米国原子力産業会議を構成する会社、団体の代表者が出席する。

ロビンス氏からの来信によれば、米国側の出席者は現在正確な数を予定することができないが、一番適切な推測としては、米国からは恐らく五十名、さらに二十五名ぐらい、その当時日本にいるもの、他国にいても出席できるものが参加するものと考えられるとしている。

なおこのほかに、日米両フォーラムが連名で、東南アジア地域の若干の諸国の原子力関係者に、オブザーバーとして出席するよう招請状を出すことになっている。

会議は総会と部会

東京と大阪で開催する

日米原子力産業合同会議でなされる行事のうち、その中心となるものは会議と講演会とであるが、これについては次のとおりである。

会議は総会と部会とに分かれ、総会は十三日午前九時三十分から産経会館国際ホールで開き、会議役員の選挙、講演などがあり、正午午食会を開き、日米両産業会議の会長からあいさつがある。午後は二時三十分から部会となり、午後六時から東京会館で開催の晩食会では、首相、原子力担当の国務相、外相、通産相、米国大使のあいさつが予定されている。

十五日午前の総会では意見発表と討論が行われ、日本における原子力の開発及び利用上の問題点と日米民間協力について、が議題とされる。

講演の主題として予定されているものは

①米国における原子力開発の現状と将来計画について

②極東及び日本におけるエネルギー需給事情について

③日本における原子力開発の現状と将来計画について

を予定されているが、その日程及び演題は別項のとおりである。

部会では意見発表と討論を行うがA、B、Cの三つに分れ十三日午前、十四日午前、午後にわたって行う。なお部会は大阪においても行われる。

講演会の日程

講演会は一般市民を対象として米国側の講演者により、東京、大阪、名古屋で行い、適当な映画を併用する。日時、演題などは次の通りであるが、講演者についてはロビンス氏とも打合せ、後日決定される。

東京(十四日あるいは十五日午後)
原子力の将来について

大阪(十七日午後)原子力の産業への影響

名古屋(十七日午後)人類の福祉のための放射線利用

実行委員会を設く

日米原子力産業合同会議に万全を期して準備中の日本原子力産業会議では、このほど「実施手続」を決めた。これによれば、合同会議の準備及び運営は産業会議の理事監事その他から会長が実行委員を委嘱し、この委員会が行うことになっている。

実行委員会は会議の運営、設営、渉外、経理に関する各部門を担当する小委員(準備委員を配慮)を選任し、実施に当るものである。

会議の用語については日本語並びに英語が併用される。

ロ事務総長の来訪は十六日

準備の打合せに単身で

日米原子力産業合同会議の準備打合せのため来日する米フォーラム事務総長チャールス・ロビンス氏の到着は、日本側準備関係者から熱心に待たれているが、最近同氏秘書からの報告によって、十二月十六日午後五時十五分羽田着のパン・アメリカン機で来日することが明かにされた。氏は目下欧州にあって、ベルギー、イギリス、スイス、フランス、イタリア等でフォーラム関係の仕事に忙殺されているが、日本にはイタリアから単身来訪する。合同会議に関する準備打合せを急ぎ終って、クリスマスまでには帰米するものと思われるから、日本における日程も相当いそがしいものと見られている。【写真はロビンス事務総長】

二十三日夜羽田に帰った使節団一行

使節団の帰国報告会

七日東京皮切りに

大屋団長ら八氏が講演

日本原子力産業会議の第六回月例懇談会は、原子力使節団の帰国報告会として、十二月七日午後一時三十分から、東京丸の内の日本工業クラブ大会堂で開かれる。

あたかも帰国直後のこととて、各団員とも多忙な日夜の活躍を続けているが、当日は在京団員はできるだけ顔をそろえるはずで、報告は大屋団長ら八名が担当することになっている。

まず大屋氏は団長の立場から一般的な報告を、約三十分にわたって講演し、そのあとで松根常任理事(電気事業連事務理事)小林開銀総裁、久留島同和鉱業社長、土光石川島重工業社長、木川田東電副社長、大西日立製作所副社長、栗西日産化学工業副社長の諸氏が、その専門的立場から見て来た分野について報告する。

使節団の帰国後今日まで、新聞記事などにも視察談、所感など断片的には報道されているが、この度はその母胎たる産業会議の報告講演でもあり、総合的になされるものだけに、原子力平和利用の飛躍的進展を見ている際でもあり、各界から非常な期待をもたれているそのため産業会議でも、役員、会員、その他の関係者のほか、原子力関係各機関、報道関係、学識経験者などにも案内状を出したが、今回は特にポスター約一千枚を調製して関係方面に送った。

講演終了後映画「コールダー・ホール原子力発電所開所式」「英国の原子力偉業」(英国大使館提供)を映写する。

大阪では六氏講演

第五回関西原子力懇談会

大阪の使節団報告会は第五回関西原子力懇談会として、大体東京の月例懇談会に準じて行われる。十二月十二日堂島の大阪商工会議所東集会室で、午前中の関西原子力懇談会発会式のあとを受けて、午後一時半から二時間半にわたって開かれる。

報告担当者は大屋団長の一般報告につづいて、松根常任理事、久留島同和鉱業社長、前田富士電機取締役、大野三菱電機研究所長、阪本住友電気工業技術部次長らが当るはずで講演終了後東京同様原子力映画の映写を行い、午後四時から記者団と会見する。また同五時からは朝日新聞社の主催で使節団座談会が行われる。

名古屋も開催

中部原子力懇談会

名古屋における使節団報告会は、十二月十四日午後一時半から四時まで、名古屋商工会議所集会室で行われる。名古屋でも当日は大阪同様午前中中部原子力懇談会の発会式が行われ、そのあと午後同所で報告会が開かれるが、報告担当には、大屋団長、松根常任理事、井上中部電力社長、久留島同和鉱業社長、栗西日産化学副社長らが当る。講演終了後は東京、大阪同様原子力映画の映写会があり、午後四時から記者会見、午後五時から中日新聞社主催の使節団座談会を行う。

中部は十四日

関西と同じ性格で

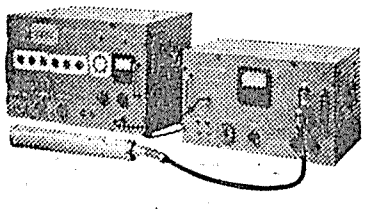
大阪の関西原子力懇談会発会式に呼応して、名古屋では十二月十四日午前十時三十分から「日本原子力産業会議中部原子力懇談会」発会式が行われる。大屋副会長のあいさつのあと規約審議、役員の委嘱、委員長のあいさつがあって、委員長から幹事を委嘱する。

訪英調査団が報告

訪英原子力調査団の副団長一本松珠璣氏(関西電力常務)ら六名は、十一月二十七日早朝帰国したが同日午前十一時半から首相官邸で正力産業会議長に帰国報告した。

この報告では、①英国の天然ウラン石墨炉は発電用として採算の合う時期に来た。②同型の原子炉は安全性が高い。③この型の電気出力二十八万キロワット(十四万キロワット二基で一組)程度の実用発電炉を購入すべきである。④英国は協定を締結すれば、燃料の保証、技術者の養成、炉の製作方式、化学処理などについても援助を申し出ているなどの点を明かにした。

合金鉄・塩化ビニール・肥料
ソーダ製品其他
株式會社 鐵興社
東京都中央区京橋三ノ四

Toshiba
東芝の放射線測定器
G.M.カウンター
シンチレーションカウンター
シンチロメーター
電離槽型サーベイメーター
G.M.管型サーベイメーター
ポケット・モニター
ポケットチェンバ
フイルムバッジ線量計
X線量計("r"メーター)
医療用深部線量計

東芝製
シンチレーションカウンター
東芝医療電気株式会社
本社 東京都中央区銀座7丁目5 電話(57)6171 (5)5571 (4)
支店 東京・大阪・福岡・仙台・名古屋・広島・札幌・金沢・高松・松本
営業所 静岡・鹿児島・松江・小倉・岡山・前橋・京都・神戸・秋田・下関

放射線測定器
専門輸入商社
The Victoreen Instrument Co.
各種放射線測定器
東陽通商株式会社
社長 奥村喜和男
本社 東京都中央区日本橋本石町1—2
電話日本橋(24)代表5276番
出張所 大阪市西区靭下通1—10富屋ビル
電話土佐堀(44)0902番

ENCYCLOPEDIA OF CHEMICAL REACTIONS
Edited by
C.A. Jacobson & C.A. Hampel
16×24 cm. (Reinhold, New York)
—近刊—
Vol. VI: Samarium, Scandium, Selenium, Silicon, Silver, Sodium, Strontium, Sulfur. '56. 800 p.....ca ¥6,000
〃 VII: Tantalum, Tellurium, Terbium, Thallium, Thorium, Thulium, Tin, Titanium, Tangsten, Uranium, Ytterbium, Yttrium, Zinc, Zirconium. '56
東京・日本橋 都内出張所〜九一ビル 丸善 Tel.(27)2321, 2351 振替東京5番

平和利用に飛躍的な進展をポした
一九五六年の原子力界を顧る（上）

驚異的な一年の業績
官民の陣容こゝに整う

原子力委員会が年頭に発表した、五年で発電できるようにするとの控えめな決意を聞いたわれわれは、同じ年の暮にはもうその気になれば今すぐにも着手できる現実に直面している。一九五六年の原子力平和利用の進展は、実に驚異すべき飛躍であつた。

正力国務大臣を初代委員長として一月一日発足した原子力委員会に次いで、三月一日には日本原子力産業会議、六月十五日には改組日本原子力研究所、八月十日には原子燃料公社が誕生した。かくて原子力平和利用の陣容は確立されたのである。この間日本原子力産業会議の海外使節団、国会議員による訪米調査団、原子力委員会からの訪英調査団の派遣があった。

一方目を海外に転ずれば、先進諸国はもちろんあらゆる国々が原子力開発に力を注ぎ、国際間の協定は日々その数を加えている。原子力国際機関規約は三年の日子を費しながらも十月二十六日調印を終り、英コールダー・ホールの発電炉は運転を開始し、米大統領の核燃料海外向け値下げの声明があった。この年を送るに際してこの過去一年を顧る。

一月

▽一日　原子力委員会発足、初代原子力委員長に正力松太郎氏。
▽四日　原子力委員会初会合。
▽五日　正力国務相原子力行政の所信表明。
▽六日　仏の産業用原子炉第一号操業を開始。
▽九日　原子力委、原子力関係予算三十六億円を要求◇米コンヴェア社原子力飛行機試験で空軍と共同発表◇放射性コバルトでガン治療に成功とモスクワ放送報道。
▽十日　米原子力委、放射性同位元素の輸出制限緩和を発表。
▽十一日　米原子力委、トリウム一キロ四三ドルと決定。
▽十三日　原子力委、五年内に発電、アイソトープ活用などで委員長声明を発表。
▽十四日　原子力委、研究所の国営に反対◇京大サイクロトロン設置。
▽十六日　学術会議、原子力委員会に三原則要望声明。
▽十七日　西欧六国代表原子力平和利用共同計画会談（二日間）
▽十八日　西欧六ヵ国原子力機関設置司決◇米・スエーデン原子力協定調印◇米原子力委、放射性ストロンチウムは人体に無影響と発表。
▽二十日　原子力委、原子力産業会議設立を提唱◇三十一年度原子力利用計画を決定。
▽二十三日　原子力局、原子力予算の配分を決定。
▽二十四日　自民・社会両党の原子力合同委の原子力研究所法案成る。
▽二十五日　米・ベルー原子力協定調印。
▽二十七日　電気事業連、原子力連絡会議開く◇閣議でウォーター・ボイラー型原子炉一基購入、CP—5型一基発注を決定。
▽二十八日　ソ連・ユーゴ原子力協定調印。
▽三十日　米原子力委、報告発表◇米で反陽子写真発表。

二月

▽三日　日本原子力産業会議第一回設立準備委員会開く◇米・韓原子力協定調印。
▽四日　経団連、原子力研究の国営に反対。
▽七日　欧州石炭鉄鋼共同体マイエル議長、米大統領と原子力プール問題で会談。
▽八日　日本原子力産業会議製綱きまる。
▽十日　原子力研究所法案要綱成る◇ソ連・エジプト原子力協定調印◇原子力委、重水、ウラン各四トン輸入決定。
▽十一日　欧州石炭鉄鋼共同体六ヵ国原子力プール問題会談。
▽十二日　ソ連、原子力砕氷船設計完了発表。
▽十三日　米・西独原子力協定調印。
▽十七日　ソ連、ジュネーヴの欧州原子力会議参加を発表◇インド首相原子力平和利用対英協定締結発表。
▽二十二日　米大統領ウラン二三五を四十トン放出発表。
▽二十三日　英原子力発電所建造計画発表。
▽二十七日　原子力国際機関創立準備会議ワシントンで始まる◇米原子力委、ポケット用放射能保護装置発明など特許発表。
▽二十八日　米原子力委、核分裂で直接発電の新方法を公開。
▽二十九日　OEEC幹事会、原子力開発特別委員会設置決定。

三月

▽一日　日本原子力産業会議発足◇英蘭間にウラン買付協定成立
▽十三日　米・タイ原子力協定調印◇米原子力委、重水二二九トン六ヵ国に売却発表。
▽十四日　国連科学委、原子力放射能影響会議（二十三日まで）
▽十五日　アジア原子力センターはマニラに設置と米ICA発表
▽十六日　仏キュリー夫人没◇米・印重水売却協定調印。
▽二十日　共産圏十一ヵ国原子力会議モスクワで開く（二十六日まで）
▽二十六日　参院、科学技術庁設置法案成立◇共産圏十一ヵ国統合原子力研究所協定調印◇米で原子力平和利用七ヵ国諮問委員会議（四月一日まで）
▽二十七日　日本原子力産業会議第一回理事会
▽二十日　酸素の原子中の太陽光線解放発見米空研発表。

四月

▽一日　米フォード財団、原子力平和利用賞設定。
▽四日　米原子力委原子炉開発副部長クラーク・グッドマン博士工業クラブの第一回日本原子力産業会議月例懇談会講演で加圧水型動力炉を推奨。
▽六日　原子力委、研究所敷地に茨城県東海村を決定。
▽十二日　九電力社代表、営業用原子炉の三六年発注設置に促進申入れ。
▽十八日　原子力国際機関十二ヵ国会議規約草案で合意成立。
▽二十三日　米・西独原子力平和利用協定発効。
▽二十五日　国連本部、原子力国際機関規約草案を発表◇ソ連、中共に原子力発電所建設発表。
▽二十七日　欧州原子力共同体創設案発表。
▽二十八日　加・印原子炉協定調印。
▽三十日　参院原子力関係三法案を可決、成立。

五月

▽四日　厚生省、放射性物質の許容限度適用基準を発表◇米原子力委、初の営業用原子力発電所建設を許可。
▽十日　日・英原子力連絡会議開く。
▽十三日　米原子力調査団シンガポール着。
▽十七日　英原子力公社産業部長クリストファー・ヒントン卿、東京会館の日本原子力産業会議第二回月例懇談会講演で、天然ウラン・石墨型工業炉を推奨◇ソ連原子核研究所、西欧側科学者に初公開。
▽十九日　科学技術庁発足。
▽二十三日　英原子力公社、発電用炉の活動開始と発表◇米原子力調査団訪比。
▽二十五日　電事連　原子力発電二十五ヵ年計画発表。
▽二十六日　英物理学研究所、原子時計完成と英紙報道。
▽二十七日　英原力子発電所活動開始◇ソ連・ユーゴ原子炉建設協定調印。
▽三十日　モスクワ放送、ソ連開発地用移動原子力発電所建設を計画と発表。
▽三十一日　原子力委、三十一年度原子力開発計画成る。

六月

▽三日　米ブルックヘヴン調査団来日◇ブルガリアに原子力センター建設開始とモスクワ放送。
▽六日　日本原子力産業会議第三回月例懇談会で米調査団長マーヴィン・フォックス氏ら講演。
▽四日　日・米原子力会談開く。
▽八日　米・オーストリア原子力協定調印。
▽九日　米、日本にプルトニウムの供与許可。
▽十日　在ソ・イタリア科学者ソ連の六百億電子ボルト加速装置築造計画完了を発表。
▽十一日　ジュネーヴで原子物理学会議（二十三日まで）
▽十二日　米英両学会、放射能の影響発表、許容量限度引下げと廃棄物完全処理を警告。
▽十三日　米英新原子力協定調印。
▽十四日　原子力委、米からの特殊核物質提供申入れに受諾回答
▽十五日　改組日本原子力研究所発足。
▽十七日　米原子力民間団体、日本の早期原子力発電を勧告。
▽十九日　米・仏原子力平和利用協定調印◇米科学者団、原子力放射能の生物学的影響調査報告。
▽二十一日　米原子力委、新素粒子（ニュー・トリノ）確認◇米・スイス原子力協定調印。
▽二十二日　米、蘭・オランダと原子力協定調印。
▽二十七日　米・デンマーク・ウラン貸与協定締結。
▽二十八日　シカゴで民間初の工業用原子炉始動。
▽二十九日　米・西独原子力協定調印。

七月

▽二日　米電気会社原子力研究所で爆発事故◇ソ連原子力飛行機試験飛行。
▽五日　原子力委、三年計画で放射線総合医学研究所設立決定。
▽六日　仏科学アカデミー放射能報告公表、許容限度引下げ警告。
▽十一日　共産圏諸国原子力平和利用協定調印。
▽十二日　日本原子力産業会議第四回月例懇談会で米フォーラム会長ウォーカー・L・シスラー氏講演◇ソ連・エジプト原子力平和利用協定調印◇米・白原子力協定拡大協定調印◇米上院原子炉建設案可決。
▽十七日　米原子力潜水艦ノーチラス号燃料無補給で五万海里航行と上院軍事委発表。
▽二十四日　ボンベイで五ヵ国原子力平和利用会議（二十五日まで）
▽二十七日　原子力委、CP—5型原子炉購入決定◇日本原子力産業会議、原子力産業使節団メンバーきまる
▽三十日　湯川博士来原子力委員会を訪問。

八月

▽四日　インド、アジア最初の実験用原子炉完成。
▽七日　運輸省、原子力船建造計画発表。
▽十日　日本原子力研究所、茨城県東海村で起工式◇原子燃料公社誕生。
▽十三日　米現在貯蔵のプルトニウムは原子力兵器以外使えぬと
▽十五日　第一回アイソトープ会議開く。同展覧会開場（二十六日まで）
▽二十一日　原子力委、三十二年度原子力予算を百十九億六千万円に内定。
▽二十三日　学術会議、原子力開発計画に、基礎研究の必要などの答申案決定。
▽二十四日　第一回アイソトープ会議の研究発表会を東京産経会館で開く（二十六日まで）◇原子力開発利用長期基本計画内定。
▽二十七日　ストロンチウム九〇の雪害を、米原子力委不当業観とウルフ博士金米生物科学協会で演説。
▽三十一日　ブラジル対米原子力協定破棄（核分裂物質輸出停止）。

原子力委員会発足
仏の産業用炉第一号運転

産業会議創立さる
仏のキュリー夫人死亡す

日本原子力産業会議創立発企人総会

シスラー氏が来訪
使節団メンバー決る

R・I会議開かる
原子燃料公社発足する

米ウラン二三五を四十トン放出発表

欧州原子力共同体
創設案を発表

原子力研究所生る
シカゴで民間工業炉始動

ヒントン卿を迎う

TEN 原子力平和利用
工業用計器完成
β線厚み計
γ線厚み計
各種
科研製
ポケット
線量計
荷電器
（今般科研と弊社間にて総販売店契約締結）
販売業務開始
各種放射能測定装置
神戸工業株式會社
本社　神戸市兵庫区和田山通1—5
支社　東京都中央区八重洲3—7、営業所　札幌・名古屋・福岡

通産省月刊機関誌 通商産業研究
★特集　技術革新の意味するもの
技術革新と経済発展　野田信夫
技術革新と企業経営　小坂徳三郎
技術革新の方向
—エネルギーソースの方法論—　吉村昌光
"技術は魔術師である"　オートメーションと電用　水野武
定価100円　銀座東6の2通商産業研究社

米国Detectron社製品
All New!
Detectron DS-235
AEC SCM-32A
SCINTILLATRON
シンチレーションカウンター
ボックスアンドバルブデテクター
プラヂエーションデテクター
パイプデテクター etc.
◎米国JORDAN社製品
◎独乙SARTORIUS社製品
◎米国ULTRA—VIOLET社製品
実験研究室用一般理化学器械製作販売
ヤマト科学器械株式会社
東京都中央区日本橋本町2丁目9番地
電話日本橋（24）5231代表

使節団・最初の正式報告会

議論よりもまず仕事
着手ためらえば悔を残す

十一月二十六日午後三時から、日本原子力産業使節団は、新聞放送記者団と帰国後初の正式報告会談を行った。使節団の帰国者は、二十三日夜到着の大屋団長らを迎えて十九名となったので、日本原子力産業会議の主催で、産業会議会議室で行われたものである。産業会議側からは大屋団長のほか使節団員松根、木川田、瀬藤、丹羽、久留島、沢井、岩永、久良知、島村、池田、柴田諸氏と菅会長、橋本常任理事以下出席。まず菅会長のあいさつがあって、大屋団長並びに各団員から次のような視察報告があった。そのあと、記者団側から質問も出て、民族主義論議に花が咲き笑い声も起るなど、和やかに同五時終った。

経済面引合う

大屋団長　第一に気のついたことは、日本では議論ばかりしていて仕事が進まないということであった。第二には外国ではどうしてあんなに原子力に金を使ったかということであった。戦後の特殊事情から開発の遅れていた日本が、議論ばかりしているのは戒しなければならない。第三には世界の原子力事情はぐずぐずしていられないということであった。世界各国は原子力発電を実施しようとしている。これに重点をおかねばエネルギーの解決はできない。スエズ問題で石油の輸送に支障を生じたことが特にこの契機となったようだ。経済の面からいっても、米英などがあのように力を入れてやっているのは、十分引き合うことを証明していると思う。

石油、石炭のコストはどんどんあがっている。二、三年後には、あの時手をつけておけばよかったのにということになると思う。

何よりも早くやれ

松根常任理事　一番驚いたことは水力の豊富なところで原子力発電に熱心なことであった。無限にふえる電力需要をカバーするには原子力によらねばならぬからだ。石炭、石油も次第に高くなる。殊に寒い国では暖房に相当使う。国際収支からも燃料需給の関係からもそうなっている。水火力とも原価が高くなって行く。原子力は開発が進めば進むほど安くなるという点から世界の各国とも力を入れている。私の結論は、何よりも早くやるということが大切だ、ということである。

その他の報告

久留島氏　カナダのウラニウム鉱山はぞくぞく開発されている。品位は一%から四%ほどのものだが、これを五〇―六〇%のものにして送っている。米国でも輸入している。わが国でもこれを輸入して天然ウランに精錬することは困難でない。

木川田氏　結論をいえば、日本としては実験動力炉の手近かなものを早く入れ先進諸国の忠言も聞いて、よい、安いものをわれわれの手で造ることである。

丹羽氏　原子力船についていえば、アメリカではノーチラス号などの経験を生かして、いま新しい計画で小型潜水艦の建造中である。これが一、二年で完成すれば、相当スピーデーに商船に着手するだろう。一、二年か二、三年で方向が出たら、アメリカだから思いきったことをやるだろう。

瀬藤氏　日本もいたずらに他の真似ばかりせずに独自の考え方でやるべきだ。

池田氏　イギリスでは、原子力船については実際に金をかけて実施面にぶつかっていない。着々準備しているというのがその実情のようだ。

島村氏　民間産業界が原子力計画に非常に寄与していることは予想以上だった。各国とも学界との協力が大変よくいっている。国をあげて推進しているように思われた。

みんな元気で羽田に帰った使節団

日本原子力産業会議
第八回理事会報告

日本原子力産業会議の第八回理事会は、十二月四日午前十一時から東京丸の内の東京会館で開き菅会長から

①業務日誌
②名古屋アイソトープ展覧会の件
③企画委員会組織の件
④使節団帰国報告の件
⑤会員状況。

を報告。続いて

①関西、中部における原子力懇談会設置の件
②日米原子力産業合同会議に関する件
イ、実施手続
ロ、会議要綱
ハ、展覧会開催要綱

を議題として協議し、正午散会した。

大屋団長らかえる
六十八日の長旅を終えて

日本原子力産業会議派遣の原子力産業使節団中枢部、大屋団長ら一行は、既報のように十一月二十三日午後九時五十五分羽田に帰着した。一行は大屋敦団長（産業会議副会長）を初め、松根宗一（同常任理事）木川田一隆（東京電力副社長）長尾節造（中国電力副社長）大西定彦（日立製作所副社長）島村武久（原子力局政策課長）柴田秀利（産業会議参与）阪本勇（住友電工技術部次長）八使節と、交通公社の吉田氏並びにニューヨークから使節団と行を共にした大西氏令嬢礼子さんの十名。羽田出発以来六十八日目の帰還であった。

団長の視察談

アメリカは別として、カナダや欧州各国は、いまや石油の入手難からエネルギー問題で深刻に悩んでいる。この点わが国もまた同様であり、原子力発電は緊急な必要事となっている。各国とも政府と民間とが協力して開発に努力している。わが国でもいたずらに議論しているだけではダメである。

米フォーラム大会では来春東京で日米合同大会を開くことを決めて来たが、これも一つの収穫だった。

イギリスではコールダー・ホールの施設を見たが、イギリスは人道的立場から秘密のない原子力開発を行っているとの感銘を受けた。このイギリスの動力炉はわが国に輸入するに適したものの一つであると考える。政府及び民間から十分な資金が得られれば、ある程度大型な動力炉を輸入していいと思う。

記者団にかこまれた団長

既に二十七名帰る

使節団の帰国者は十二月五日現在で二十七名となった。

▽石川鹿島建設常務取締役　十一月二十六日▽小林開銀総裁、竹俣同理事、水野同主査　二十八日▽前田富士電機取締役　二十九日▽角野八幡製鉄副社長　三十日▽粟西日産化学副社長　十二月一日▽腰田幹事　三日▽片桐旭化成副社長　十二日（予定）▽久野新三菱重工技師長　一月十五日（予定）

歓迎会を開催

同じ四日夜には解団式日本原子力産業会議主催の原子力産業使節団歓迎会は十二月四日正午から東京会館で開かれ、大屋団長ほか使節団員、各界関係者、来賓として正力国務相らが出席した。また使節団解団式は同じ四日夜五時から築地「鶴登久」で行われた。

基本的計画を立案
産業会議・企画委員会を設く

日本原子力産業会議では企画委員会を設け第一回会合を十二月五日工業クラブで開催した。最近原子力平和利用の進展に伴って、常設各委員会の活動にまつことが多くなったので、さる十月十日常設委員長会議を開いて懇談したが、その席上で、常設の各委員会と直結する総合的企画委員会を設けて行くことが必要ではないか、という点が問題となった。その後産業会議では検討を重ねていたが、ようやく成案を得たものである。同委員会の趣旨は、産業会議の全般的業務運営と問題処理に関して基本的計画を立案し、常設各委員会との密接な連絡調整をはかる目的で、主として各委員会委員で構成するものである。

このため運営委員を中心として委嘱し、このほかからも適当な人々に依頼しており、現在交渉中のものを含めて次の通りである。

安芸皎一、青木敏男、稲生光吉、稲葉秀三、一本松珠璣、今井美材、小野寛、金沢良雄、木川田一隆、岸本通智、北川一栄、栗本幹、駒井健一郎、郷司浩平、佐局敬蔵、嵯峨根遼吉、斎藤辰雄、柴田秀利、鈴木竹雄、瀬藤象二、田中慎次郎、竹内俊一、友成九十九、豊島嘉造、福田勝治、前田七之進、正井省三、三宅晴輝、山県昌夫、山崎文男諸氏（五十音順）

原子力用語辞典
十日紀伊国屋から発売

日本原子力産業会議が各界の要望にこたえ、広い分野にわたる専門家二十数氏を動員して編纂し、さらに杉本朝雄、橋口隆吉、矢木栄ら三氏の監修を得た「原子力用語辞典（日英仏ソ四カ国語対訳）」がいよいよ十二月十日紀伊国屋書店から発売される。この事業はもちろんわが国でも初めての試みであり、編纂関係者にも予想以上だった。各国とも学界との協力が大変よくいっている。国をあげて推進しているように思われた。

この事業は原子力関係用語統一の問題に資するばかりでなく、広く原子力に携わる関係者にとっても、座右の書として親しまれることが期待されている。定価七五〇円。

日本原子力産業会議
十一月の活動

事業経過

◇一日▽「名古屋アイソトープ展覧会」開場式◇六日▽日米原子力産業合同会議第一回準備委員会◇七日▽第三十一回常任理事会▽放射線利用施設研究会幹事会▽原動専第三回経済グループ研究会◇八日▽第二回経済専門委員会◇十一日▽名古屋アイソトープ展覧会終る◇十二日▽原動専第四回機械グループ研究会▽日米原子力産業合同会議第一回小委員会◇十三日▽第五回経済委員会▽原動専第七回電気グループ研究会▽第三十二回常任理事会◇十五日▽第四回原子動力委員会◇十六日▽第七回総合エネルギー委員会▽第三回法制専門部会◇十七日▽日米原子力産業合同会議第二回小委員会◇十九日▽日米原子力産業合同会議第一回準備委員会▽原動専第七回冶金グループ研究会◇二十日▽第三十三回常任理事会▽原動専第四回化学グループ研究会◇二十一日▽第七回国内事情編集連絡会▽原動専第五回物理グループ研究会◇二十二日▽原動専第八回遮蔽班研究会▽放射性同位元素第二回専門部会▽特許問題打合せ会◇二十三日▽原子力産業使節団大屋団長ら帰国◇二十四日▽大屋使節団長、松根常任理事、正力原子力委員長を訪問◇二十六日▽原子力産業使節団、報道関係者懇談会◇二十八日▽第三十四回常任理事会▽菅会長招待使節団懇談会▽原動専第八回電気グループ研究会◇三十日▽防英原子力調査団と原子力産業使節団との懇談会

刊行資料

◇一日▽原子力海外事情第八号◇五日▽ニュース・フラッシュ・オン・アトム第四号◇十五日▽原子力国内事情第七号▽原子力関係資料目録（速報）第十二号◇二十五日▽原子力資料第十号「世界各国の原子力計画」（マッキニー報告基礎資料）

放射性同位元素講習会
来春実習を主に

日本放射性同位元素協会、日本原子力産業会議、日本原子力研究所では、来春第八回放射性同位元素講習会を開催する。これはさる八月開いた第七回講習会の実習で、理工学コースは他のコースに比較して、希望者と実際に受講できたものとの割合が低かったこと、並びに各部門に共通な基礎実習が望まれている実情に鑑みて、一般コースに重点をおき、かつ実習のみを行うものである。

期間は一月二十一日から二週間で原子力委員会、科学技術庁、文部省、農林省、厚生省が後援する。場所は西ヶ原の農業技術研究所、これまで放射性同位元素講習会の講義を修了して実習に応募しながら、定員などの関係で受講できなかったものを優先的に考慮して三十名を定員とし、会費は一名八千円である。

なお申込締切は十二月二十五日で、この講習に関する事務は東京都文京区駒込上富士前町三一、科学研究所内日本放射性同位元素協会で取扱っている。

お買物は 伊勢丹 新宿

NEW BOOKS ON VARIOUS SUBJECTS

Troxell & Davis
Composition and Properties of Concrete. 434 p. (McG.) ¥3,100

Kuhn & Tucker (eds.)
Linear Inequalities and Related Systems. "Annals of Mathematics Studies" N. 38 322 p. (Princeton U.P.) ¥2,000

Fowler, C.—High Fidelity. A Practical Guide. 310 p. (McG.) ¥1,980

Schaumjan, G. A.—Automaten. Zweite, überarbeitete Aufl. 610 S. '56 (VEB Verl. Technik) ¥7,200

International Dictionary of Physics and Electronics. 1004 p. 1956 (Van Nostrand) ¥7,000

—発売中—
日英仏露 原子力用語辞典
日本原子力産業会議篇
昨夏のジュネーブ国際会議で使用された関係用語3000の四ケ国語対訳本邦初の出版。

紀伊國屋書店
東京・新宿区角筈1丁目826・電話 (37) 代表 131　大阪営業所（梅田ビル2階）

内外旅行のお世話を通じて
海外との文化交流にも
役立たせて戴いております
皆様の海外旅行もぜひ....
日本交通公社

常設委員会だより

法制委員会　第三回専門部会は十一月十六日午後一時三十分から原子力産業会議会議室で次の議題で開かれた。一、動力協定研究中間報告。第三回委員会の決定にもとづいて動力協定についての検討を角田運営委員を中心とした委員会で七回にわたり行ってきたが、その結果をまとめて問題点別にそれぞれの担当者から報告した。席上、なお二、三の点について疑義が出されたので、それを検討しあわせて、決定された国際原子力機関規約と米国から示された動力協定案についても総合的に加筆するため更に小委員会を開いて検討し、次の専門部会に報告、一応の締めくくりを行った後、本委員会に報告することとした。

第四回専門部会はひきつづいて十二月三日午後一時三十分から原子力産業会議会議室で開かれ、前回討論された問題について一応の結論を出して締めくくりとし、本委員会に報告することとなった。

放射性同位元素委員会　第三回専門部会を十一月二十二日午後二時原子力産業会議会議室で開会した。当日は第二回専門部会の後、企画委員会に回して審議した放射線利用施設研究会の設置要綱等について検討した。

この研究会はわが国における放射線利用施設に関する知識の普及と技術の向上を図ることを目的として設置しようとするものである。

原子動力委員会　第四回委員会は十一月十五日午後一時三十分から原子力産業会議会議室で開き、明年五月の「日米原子力産業合同会議開催について」と動力炉設備製造業者から出された「動力用原子炉の国産促進方策に関する要望書について」の二つを議題として行った。当日は安川、大山正副委員長ら三十一名の出席があり、議題一については主に会議のやり方について討論されたが結論なく、議題二はこの要望書にある原子力産業会議内に動力炉国産協議会を設けてほしいという要望についてであるが原則的には原子動力委員会内に設け、具体的な案は小委員会で立案することになった。

総合エネルギー委員会　第七回委員会は十一月十六日午後一時三十分から三時三十分まで、日本原子力産業会議会議室で開き、大和田委員長ら委員、専門委員十八名が出席し、①日米原子力産業合同会議の件②当委員会報告書の取りまとめ方の件を審議した。

建設の東海村見学

編集連絡会のメンバーを中心に

日本原子力産業会議の「原子力国内事情」編集連絡会は、発足後七回となり、回を重ねるごとに出席者数を加え、現在は毎回六、七十名の参加を得ている。同会は編集事項の連絡のほか、情報の交換、調査研究の発表、講演、新着原子力映画の観賞などを行ってきたが十二月四日には同編集連絡会メンバーを中心に、関係希望者を加え日本原子力研究所、茨城県原子力協力本部の協力で、東海村に、原研建設状況を見学した。

参加申込者は予想外の多数となったが準備の都合もあって一応百二十名で締切らねばならぬ有様だった。

当日は朝九時五十分上野発の「みちのく号」で十一時三十六分水戸着、貸切バスで現地に到着、産業会議で準備した中食後、原研の久布白理事がマイク片手に自ら案内に立ち、資料を整備して二時間余にわたりウォーター・ボイラー、ファン・デ・グラフ等建家の建設状況並びに将来の原子炉構想について詳細に説明、また原研側はこの見学を記録するため特に天然色映画におさめた。

緑美しい松林の中に、着々と建設されて行く世紀の花形原子力研究所の実況に、参加者はいずれも目を見張り、建設完成の来年、再び見学を希望しつつ、午後五時三十一分貸切り増結車で水戸を発ち無事帰京した。

原子灰

原子力使節団の一員として米加仏英の原子力開発状況を視察させて頂き、重要な事についての意見も若輩は若輩ながらに持っておりますが、この方はさておき印象深かった事の二、三を記しておき度いと思います。

英国のコルダー・ホールでは女王様の立たれた台等も残っており、なかなか華かなものでありましたが、英国の原子力研究はここに集中しておると誇るハーウェルの研究所の研究状況は活気とでもいうべきものが、米国で見学したアルゴンヌ、オークリッジ、ブルックヘブンの各研究所に比較し、著しく低調な事は意外な事でありました。

もちろん短時間の見学で、非常に乱暴な結論である事は否定できませんし、また米国の各研究所の活気ある研究状況が直ちに原子力の発展に寄与するものとも思えませんが、英国は近道を行き、米国は広い確実な基盤の上に原子力工業をうち立てつつあるという、強い印象は否定できません。

米国と英国の印象

海外使節の旅から帰って！

この印象が正しい事実であるとすれば、英国のこの方面での華かさはやがて息切れを生じ、米国は巨大なる偉容を漸次あらわして来るのではないかと思います。英国における原子力の現状を、約十年前のガスタービンの状況と比較して考えると、興味深いものがあります。英国はガスタービンにおいても華々しき出発をしその発展については非常に楽観的な見通しをもっていましたが、十年を経た今日何種の花も咲かずじまいのようであります。六、七年前ガスタービンに熱狂した一群の日本人の一人として、今日英国の原子力に対する楽観論は、素直には受取りがたいものがあります。

次にウインズケールの晩食会で、ウインズケールとコールダー・ホールを統轄しておられるデービイ氏が隣席におられ「日本では原子炉の如何なる部分を製作可能と考えるか」という問に対し、私が「ほとんどすべての部分が製作可能と考える」と返答した際の、デービイ氏の実に不快な表情は、米国の各所でも乱暴な結論である事は否定できませんし、また米国の各研究所の活気ある研究状況が直ちに原子力の発展に寄与するものとも思えませんが、英国は近道を行き、米国は広い確実な基盤の上に原子力工業をうち立てつつあるという、強い印象は否定できません。

受けたおびただしい歓迎と比較し実に対照的なものと感じました。

核融合反応の権威である米国のカリフォルニヤ大学におられたテラー博士のお話も、非常に印象深いものでありました。学術的な話でなく、誕生日のお祝いの席のお話ですが「核分裂反応を利用する現在の原子炉は、石油、石炭等の資源がなくなった際、約百年ぐらいは人間のエネルギーの源として利用されるであろう。その百年のうちにはその次の手段、これは核融合反応であるかまたは何か他のものであるかはわからぬが、何かが人間によって発見されるであろう」ということでした。非常に含みのある面白い言葉として私の頭に残ったものの一つであります。（藤永　一）

原子力五十問答 ㊹

原子燃料のできるまで（二）

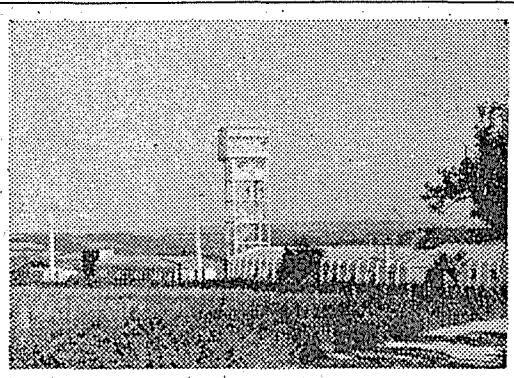
盾状地辺縁に多い

世界のウラン賦存状況

問　世界におけるウランの賦存状態はどうなっているか。

答　第二次世界大戦が終って二、三年の間は、大きなウラン資源の賦存地域は、世界でわずか二つが知られていたに過ぎなかった。アフリカのベルギー領コンゴのシンコローベ鉱山地域と北カナダのグレート・ベア湖付近の二地域である。即ち原子燃料の大きな「持てる国」としてはベルギー領コンゴとカナダの二国、ザ・ビッグ・ツーであった。それから七、八年たった現在までに、大きな資源が次々と発見され、今では「持てる国」は、ソ連圏を除いて、五つ、即ちビッグ・ファイブを算えるに至った。ビッグ・ツーの先輩の外に、アメリカ合衆国、南ア連邦、オーストラリアの三者が追従したのである。この五つは正に第一級のウラン資源国であるが、それではどうして世界的資源に恵まれているのであろうか。

地球上の各大陸内に「盾状地」（シールド）とよばれている地域がある。世界で一番古い先カンブリア紀の岩石から構成され、また一番古くから陸地として落着いているために、長い間の浸蝕作用を受けて、現在では峻険さがとれた低平な丘陵地の地形をなしている特殊の地域である。この盾状地内の特に辺縁部に沿うて、大きなウラン資源が賦存する傾向があり、五大資源国の中の四つまでがこの例に当る。最も代表的のカナダでは、ここの先カンブリア紀の分布地の形状の名が由来したのであるが、北は北極圏に近いグレート・ベア・レークのボート・ラジウム鉱山、南へ下ってアサバスカ湖畔ウラニウム・シティを中心とするビーバーロッジ、ガンナーの鉱床地帯、南カナダに入ってヒューロン湖畔に近いブラインド・リヴァーからバンクロフトにかけて、鉱脈型、鉱染型などの世界的に大きな鉱床が並んでいる。



フランス中央山塊地方のウラン鉱山
グリュリー地区ボーゾー鉱山の施設

南アフリカではベルギー領コンゴの南端カタンガ地域と世界への巨大なウラン鉱床シンコローベが賦存し、また北ロデシアに連なる世界的銅鉱床にもウランが随伴する。これ等の鉱床は調査が進むに従い、賦存地域はますます拡大されており、規模の大きさは現在でも他国の追従を許さない。

標本室で発見した南アのウラン鉱山

南ア連邦ではトランスヴァール州からオレンヂ・フリー州にまたがり注目すべき大規模のウィットウォータースランドの鉱床がある。ここは以前は世界的な産金地帯として有名であったが、その先カンブリア紀の含金礫岩層中にウランが含まれていることが、戦後アメリカの大学標本室で発見され金鉱としてゆきづまっていたのがウランの発見で一躍盛況をとり戻し、盛大に開発されている。

オーストラリアの盾状地には、北部にラム・ジャングル、南部にラジウム・ヒルの鉱脈型大鉱床が近年発見され、最近選鉱製錬所も完成されて、対英輸出の精鉱の第一陣が始めて出荷された。

アメリカ合衆国には「盾状地」は知られておらないが、代りにコロラド高原では、水平堆積層の砂岩中のウラン鉱開発がすばらしいテンポで進んでおり、急速に第一級資源国の仲間入りをした。この鉱床は従来は純然たる水成鉱床と考えられていたものだが、近年カルノー鉱にまじって関ウラン鉱や黄銅鉱その他の硫化鉱物類が発見され、その外色々わかってきたことがらから、これも一種の鉱脈型鉱床の変型と見る説が強くなっている。この外にピッチブレンド鉱脈も若干あるが、規模の点でコロラド型に劣り、従って産出量が比較的少い点で、この国としてはそれ程重要でない。

第一級の国々は、ポルトガル、フランス、チェコスロバキア等でヨーロッパの「山塊」（マシーフ）と呼ばれる花崗岩、変成岩等の古い、かたい結晶質岩石から成る山岳地帯に優秀な鉱床が賦存する。

キューリー夫人の手により始めてラジウムが発見されたのがチェコのヨアヒムスタール鉱山産のウラン鉱石だったのであるが、この鉱山は昔は銀山として非常にさかえ次いでラジウム鉱山として世界最大のものとして注目を浴び、ウラン鉱山としては戦前は世界一を誇っていたものである。この鉱脈型の大きな鉱床はボヘミア山塊中にある。

無から出発した持てる国フランス

フランスは近年までウラン資源をもっていなかったが、終戦直後「無」から出発して苦心探査の結果、今ではヨーロッパで一、二を争う持てる国となり、自給自足で原子力発電まで開発を進捗させつつある。大小のウラン鉱床は「中央山塊」（マシーフ・サントラール）の各地で発見、開発されており、またブルターニュ半島の陸部からも大きなものが発見されている、全部鉱脈型のものである。

北ポルトガルからスペイン西部にかけて「スペイン台地」（メセタ）があり、この花崗岩の山塊中に豊富な賦存地帯がある。六十年前から開発されているウルゼイリサ鉱山の鉱石は、昔はラジウム原鉱としてフランスに輸出されていたが、その大きな鉱脈は現在では地下三百メートルの深部採掘まで進んでおり、なお地下深く続く模様で、いささかの衰えをも見せていない。鉱床はピッチブレンドを含む石英鉱脈であるが、燐灰ウラン鉱や燐銅ウラン鉱等の二次鉱物の発達が著しく、深部にまで掘下ってもなかなかピッチブレンドが現われて来ないので、もともとこの鉱床にはピッチブレンドは存在しないのではないかとの疑問をもたれていたほどであったという。

第一級、第二級の大きな「持てる国」以外の国々には、イタリア、スエーデン、インドその他があるが、イタリアはフランス国境に近い山岳地帯の変成岩中に、近年始めてピッチブレンド鉱脈が発見され、徹底的な探査作業の後、現在試掘の段階にあるが、既にミラノ市にある実験炉の燃料に供給されている。

スエーデンはスカンジナビア盾状地に含まれているが、この国にはウランを含む油母頁岩が広く分布している。その中クヴァルントルプ地域のものがウラン鉱としても開発され、ストックホルム市の実験炉の燃料に供されている。

インドは「インド盾状地」を擁し、そこから若干のウラン鉱脈を発見しているが、南端トラバンコアの海浜に、世界一といわれる巨大なモナズ石の砂鉱床が賦存し、これを処理してトリウムと微量のウランを抽出する段階に達している。

トリウムの原鉱であるモナズ石鉱床の他方の雄は、「ブラジル盾状地」の東海岸で、インドと同じく海浜の大きな砂鉱床が形成されている。

つかめぬソ連圏側

ソ連圏側の最近の事情はなかなか把握できないが、ソ連は国の南端フェルガナ地方で、カルノー石やチュヤムン石鉱床を大々的に開発していると信ぜられ、またチェコのヨアヒムスタール鉱床の母体であるエルツ山脈地帯の東独側に同鉱床の兄弟分を数ヵ所で開発している。このほかいろいろなタイプの低品位鉱、たとえばベグマタイトや低品位の黒色頁岩等をも敢えて開発しているとの情報もある

（お断り　本項は三回で完了のはずであったが、予定よりも長くなったので、前回を（一）とし今回を（二）とする。）

株式会社 竹中工務店
取締役社長　竹中錬一
本社　大阪市北区中ノ島三丁目三番地
東京支店　東京都千代田区大手町一丁目六番地
営業所　札幌・仙台・東京・横浜・静岡・名古屋・京都・神戸・岡山・広島・高松・福岡

土木建築工事其他
建設工事全般設計施工
大成建設株式会社
（旧稱　大倉土木株式会社）
取締役社長　藤田武雄
本社　東京都中央区銀座三丁目四番地
電話　京橋（56）代表4131・6151
支店　大阪・名古屋・福岡・札幌・仙台・広島・横浜・新潟・高松

昭和31年12月20日（毎月2回5日、20日発行）　原子力産業新聞　昭和31年3月12日第三種郵便物認可　第21号

原子力産業新聞

発行所
日本原子力産業会議
東京都港区芝田村町1の1（東電ビル三階）
電話（59）6981—4
振替東京 5895
購読料
定価一部 20円
一年分前金 200円

S.S
耐火煉瓦
品川白煉瓦株式會社
社長 青木均一
本店 東京都千代田区丸ノ内二ノ二
電話 和田倉(20)二四一三

使節団報告会いずれも盛況

母胎団体日本原子力産業会議の、原子力産業使節団帰国報告会は、十二月七日の東京を皮切りに、大阪、名古屋三都市で開かれた。

さきに先進四カ国に派遣され、友好促進に原子力施設の視察に、遺憾なく使命を果した使節団は、二カ月余の日程を終えて無事帰国し十一月二十四日正力国務相に、二十六日には報道記者と会見して報告したが、今度は母胎団体の会員並びに一般関係者の参考に供するため開かれたものである。

なおこの機会に大阪では関西原子力懇談会、名古屋では中部原子力懇談会の結成式を挙げ両市で新聞記者会見、座談会を行ったが、各地とも盛んな歓迎を受け、報告会はいずれもこの種催しとしては空前の盛況を呈し、聴衆は会場にあふれる有様であった。

専門家の立場から
第六回原子力月例懇談会

日本原子力産業会議の海外派遣使節団を迎えて、その報告会が十二月七日東京丸の内の工業クラブ大会堂で開かれた。この日午後一時三十分から、母胎団体たる産業会議の報告会として第六回原子力月例懇談会を開催したのである。

期待された講演だけに、聴講者は一時間も前から続々と詰めかけ、定刻前にさすがの大会堂も満員となる有様で、藤岡原子力委員を初め高井東電社長、井上中電社長、高橋原子燃料公社理事長、岡野日本原子力研究所監事、宮原原子燃料公社監事、佐々木原子力局長、西村代議士らの顔も見え、月例懇談会空前の盛況であった。

定刻早川事業部長の司会で開会、菅会長から、大屋団長を中心とする使節団一同が二カ月余にわたる長途の日程を果し十分効果をあげたことに対して敬意を表し、世界はいずれの国も原子力開発に直剣な努力を払い、わが国においても各々体制を整えて、来年からはいよいよ実験段階に進むものと考えられているとき「使節団の皆様から、それぞれ専門の眼で見て来られた海外先進諸国の実際を伺うことは極めて有意義なことと信ずる次第であります」とあいさつ。

既報のように、一般報告を大屋団長から、電力の立場から松根常任理事と木川田東電副社長、原子力と金属問題について小林開銀総裁メーカーとしての立場から土光石川島重工業社長と大西日立製作所副社長、燃料の観点から久留島同和鉱業社長、化学工業者の立場から栗西日産化学工業副社長がそれぞれ報告した。

四時講演を終って英国大使館の提供による「英国の原子力偉業」「コールダー・ホール原子力発電所開所式」を映写して午後四時半散会した。（講演要旨一面に収録）

関西原子力懇談会結成式
＝あいさつする堀座長＝

大阪 名古屋は結成式と講演会
委員長に杉道助氏
関西原子力懇談会生る

日本原子力産業会議関西原子力懇談会結成式は、十二月十二日午前十一時大阪市堂島の大阪商工会議所西集会室で行われた。定刻産業会議早川事業部長の司会で、大屋副会長から、特に多数の会員を擁し、わが国の産業経済に重要な地位を占める関西地方の特殊事情に鑑み、当地方の会員相互の連絡を密にし事業効果を高めるため、ここにこの組織を作るに至った所以を述べてあいさつした。ついで阿部孝次郎氏の発言で堀関西電力会長を座長に推挙して議事に入り、準備委員里井大阪商工会理事から経過報告、約案を承認し委員長は委員互選の結果大阪商工会議所会頭杉道助氏と決り、副委員長は住友化学社長土井正治氏に決定、住友化学など四十五社の幹事を発表、杉委員長不在のため代って土井副委員長のあいさつがあって全議事を終了した。なお当日決定した同懇談会の委員は次のとおりであるが、近く会員外からも委員を選考するとのことである。

▽委員長　杉道助▽副委員長　土井正治▽委員　阿部孝次郎、山県勝見、太田垣士郎、鈴木庸輔、広田厚一、堀新

事を委嘱され四十五社は次のとおりである。

旭化成工業、安宅産業、伊藤忠商事、大阪瓦斯、大阪商工会議所、大阪商船、大阪窯業セメント、大林組、鐘淵化学工業、鐘淵紡績、川崎重工業、関西電力、久保田鉄工、倉敷レイヨン、経済団体連合会、江商、神戸工業、神戸製鋼所、島津製作所、新三菱重工業、住友化学工業、住友機械工業、住友電気工業、住友商事、武田薬品工業、大日本紡績、帝国人造絹糸、東洋ゴム工業、東洋紡績、東洋棉花、東洋レーヨン、日綿実業、日商、日本板硝子、日本触媒化学工業、日本ペイント、日本レイヨン、日立造船、松下電器産業、丸善石油、丸紅飯田、三菱電機。

口事務総長十六日来日

米フォーラム事務総長チャールス・ロビンス氏は予定よりやや遅れ十二月十六日午後六時五分羽田着パンアメリカン機で来日した。既報のように日米原子力産業合同会議について日本側と打合せのため来たものであるが、日本の産業会議側、各関係者の出迎えを受けて、元気よく宿舎赤坂プリンスにはいった。氏は十七日午前中、午前中は、会議、採算の問題、講演者

関西の報告会

日本原子力産業会議の海外使節団帰国報告会は第五回原子力関西懇談会として、午前の関西原子力懇談会結成式に引続いて、午後一時半から四時まで、大阪商工会議所東集会室で開会、堀産業会議理事のあいさつに始まり、大体東京と同じ要領で、阪本住友電気工業技術部長、大野三菱電機研究所長、前田富士電機製造取締役、久留島同和鉱業社長、士光石川島重工業社長、松根常任理事、大屋副会長の順で登壇、それぞれの視察談、意見などを講演した。その後映画「原子力科学の進歩」を上映、午後四時から三十分間同所会頭室で新聞記者会見を行い、午後五時から六時半まで大阪朝日新聞社におもむき、大屋、松根、久留島、士光、前田の諸氏と伏見阪大教授、一本松関西電力常務取締役が出席、朝日新聞社監査役田中慎次郎氏の司会で座談会を行った。

懇談会委員長神野金之助氏の挨拶につぐで、大屋副会長、産業会議の藤田信正氏、井上中部電力社長、松根常任理事、梁西日産化学工業副社長、瀬藤東芝電気専務、久留島同和鉱業社長の順で、それぞれの立場からの視察談があった。

聴衆はここも満員で、先般アイソトープ展覧会が開催されて、原子力の平和利用に対する理解から関心が高まったためか、一般人の来聴も多かった。

講演終了後英国大使館の提供による「コールダー・ホール原子力発電所開所式」「英国の原子力偉業」の二映画を観賞した。なお三時から三十分間、同会議所懇談クラブで新聞記者との会見が行われ、五時から一時間同所で座談会を開き、中部日本新聞社編集局長鈴木充氏からあいさつ、同新聞社の大沢経済部長の司会で、大屋、松根、井上、久留島、梁西、瀬藤、藤田七使節団員のほか神野商工会議所会頭、有海中部日本文化部長が出席した。座談会終了後五時から「河文」で晩食会が開かれた。

中部・委員長神野氏
原子力懇談会の結成式

日本原子力産業会議中部原子力懇談会結成式は十二月十四日午前十一時十五分、名古屋市中区の名古屋商工会議所集会室で行われた。大屋副会長のあいさつに続いて、吉本熊夫氏の発言で座長に名古屋商工会議所会頭神野金之助氏を推挙。同専務理事高坂正雄氏の経過報告並に規約案の説明で審議に入り可決。委員長は互選によって神野氏、副委員長には中部電力社長井上五郎氏が決定した。委員長あいさつ、役員及び幹事（高坂正雄氏、岸本通智氏）の委嘱後懇談に入り、大屋氏から談話を聞いた。なお同懇談会の委員は次のとおりである。

▽委員長　神野金之助▽副委員長　井上五郎▽委員　塚田実則、石田退三、吉本熊夫、佐伯勇四郎、横井広太郎、鈴木亨市、与良工。

中部の報告会

名古屋市における原子力産業海外使節団帰国報告会は、中部原子力懇談会の第一回の催しとして、本部の第三回中部原子力懇談会を兼ねて、十二月十四日午後一時半から午前の中部原子力懇談会結成式に引続いて、同じ名古屋商工会議所集会室で開かれた。中部原子力（事務局長）の説明があった後来年五月東京で開かれる日米原子力産業合同会議の実施手続案、同会議懇綱案、同日程、原子力産業利用展覧会開催要綱案などにつき意見を交換したが、当日の主な議題は次の通りであった。

①部会と総会との関係について、総会と部会の議題の取り上げ方などに関する基本的考察。

②部会の運び方について、もし予稿が用意できたらこれを事前に配布して予め研究して置くことが肝要である。予稿が得られなければすくなくとも要点のアストラクトを用意すべきであり、この手配はぜひ必要である。

③部会の問題の拾い上げと整理について、議長、副議長、セクレタリーなど必要責任者を置いて問題を整理することが必要である。

④英国を招請することについては一応今回の合同会議と切り離し考える。

⑤産業における推進用リアクター、採算の問題、講演者

企画委員会
合同会議運営で意見交換

日本原子力産業会議の全般的業務運営と問題処理に関し、基本的計画の立案をすると共に、常設各委員会との密接な連絡調整をはかることを目的とする企画委員会は、既報のように十二月五日正午、東京丸の内の工業クラブ三階第二会議室で開かれた。委員の出席者は稲葉秀三、今井美材（代）、小野寛、金沢良雄、岸本通智、北川一栄（代）、駒井健一郎（代）、郷司浩平、斎藤長雄、柴田秀利、鈴木竹雄、瀬藤象二、豊島嘉造（代）、福田勝治、前田七之進、正井省三（代）、三宅晴輝、山県昌夫の十八氏。

菅会長からあいさつ、橋本常任理

歳晩の砌愈々御清栄に渉らせられ誠に大慶に存じ上げます
弊社は来る昭和三十二年一月一日を期して社名を
東芝放射線株式会社
と変更致すこと、相成りましたので茲に謹んで御披露申し上げます
最近における人工放射線応用の進歩は真に著しく放射線の種類は所謂レントゲン線は固より放射性同位元素を線源とする各種の放射線ならびにベータートロン・ヴァンデグラフ・リニアアクセレレーター等による大エネルギーの放射線に及びその利用は医療はもとより広く農業及び工業の分野にまで拡大せられております　東京芝浦電気株式会社に於ては夙に各般に亘る放射線発生ならびに使用装置及び計器その他之に附随する諸機器の製作につとめ弊社はこれ等製品の販売を担当して参りました次第でありますが「東芝医療電気株式会社」と云う名称は些か時代遅れと相成り名実相伴わざる憾がありますので斯く社名を変更するに至りました次第でございます
尚各種医用電子装置（心電計・脳波描記装置等）医科診療用機器類については従前の通り相取扱いますことは申すまでもございません何卒右の趣旨を御諒承の上今後共倍旧の御高配御引立を賜わりたく特に御願い申し上げます
昭和三十一年十二月十日
東芝医療電気株式会社
取締役会長　河村允明
取締役社長　小宮虎之助

化学百科事典
CHEMICAL ENCYCLOPEDIA
新刊
Ed.-in-chief : George L. Clark
Managing Ed.: G. G. Hawley
18×23cm. Approx. 1100p.　Jan. 1957. 発行予定
(Reinhold, N. Y.)　予約概価 ¥7,000
本化学事典は膨大な化学事典，例えばKirk-OthmerのEncyclopedia of Chemical Technology 等既刊の定評ある大事典に範を採り，特徴を抜萃して単冊を以てよく時代に事足りるよう企画編纂されたもので，化学者のみならず凡ゆる分野の科学者に up-to-date の知識を供給する上にまたとない参考書である。
東京・日本橋
都内出張所～丸ビル一階
渋谷東横・新宿伊勢丹
Ⓜ 丸善
Tel. (27)2321, 2351, 2361
振替東京 5 番

会講演要旨

本工業クラブ大会堂で開かれた日本原子力産業会議第六回月例懇談会講演の要旨は次のとおりである。

結論は踏切ること

大屋団長がまず一般報告

イギリスではどんな質問をしても包み隠すことなく返事をしてくれたが、このような事は、従来はなかった事である。恐らくイギリスは相当の自信をもって原子力発電の推進に当っておるのだと感ぜざるを得なかった。

アメリカではまだどの型の原子炉がよいかと明言するような立場にはなっていない。しかしこれは原子力の発電が引合わないから苦悶しておるというのではなく、アメリカ一流の、どうせやるものなら世界に冠たる優秀な発電用の原子炉を作り上げたい、という一つの開拓者精神とでもいうべきものが強く働いているからである。

わが国には何も急ぐことはない、もう少しすればいいものが出来るのだから、それまで待てという人もあるが、そのような議論を徹底させて行くと、永久に待った方がよいということになる。訓練というものは、自ら相当規模のものをこしらえて、それを運転してその実際の経験を体得するのでなければ本当のものはできないと思うので、私共はとにかく踏み切らねばならないという、大まかな結論を持って来た。

先進国の原子力開発に対する関心は非常なものである。日本はえらく議論が盛んで大変な原子力国になっておるようだが、さてお前の方では今何をやっているかと聞かれると、少々返事に困る―といったのとは違う。日本はもう一段積極的態度をもって進まなければならぬ。

電力事情から

松根常任理事

日本の電力事情という建前から欧米の原子力開発について述べる。イギリスとかフランスとかが、水力もしくは火力が資源的に乏しいことは前から知っていたが、カナダ、スエーデン、スイスなど、われわれが非常に水力の豊富だと思っていた国が非常に熱心に原子力の開発に努力している。これは日本の事情によく似た点があって、電力の需要が盛んになり、だんだんコストが高くなり、産業の発展に支障を来すので原子力発電が期待を持たれるのである。

英独仏は高い安いにかかわらず原子力発電に頼らねばならぬ、という意気込みが見える。日本も原子力に頼るほかないと思う。

いま電力業者の重大な問題は、電力コストの上ることに対する解決であるが、原子力は開発が進むに従ってコストが下るのであるから今日の段階ではなるべく早く原子力発電を手に入れて、研究、訓練をすることが必要である。

将来を誤るな

木川田一隆氏

団長は国際場裏に馴れた経験と地能な語学と原子力の造詣とをもって使命を果された事実が、今後各国との協定や取引に基本的要素として、陰に陽に生きて来ると確信する。

世界の進歩に伴っていつでも受入れられるだけの態勢を作っておくことが必要である。そして人の真似事でなく日本の経済の血肉となり得る態勢をどこまでもとってもらいたい。政府においてもこの際思い切って、そういう方向に強力な進め方をしてもらいたいと考えているのである。

製造業の立場

土光敏夫氏

大体私共の見て歩いた所では、米国では現在大型の原子炉が建設され、あるいは動いている。もはや研究を終って大きなスケールでこれを実現化しようとするところに来ている。私共はこういう既に実証されたものを受入れて行くことになるのだが、よほど先の事を考えると、核燃料の需給態勢の見地からどうしても増殖炉のことを考えねばならぬ。

次に機械メーカーからすれば材料ということが、製造加工、溶接技術など大きな問題となるが、現在日本でも最新式のボイラーなどは相当高圧高温のものが行われている。百五十、百七十、……ものも溶接することができるとはないと思う。

燃料心配なし

久留島秀三郎氏

原子力の問題が非常に大きくなって来ると共に、私が一番心配したのは、日本でそんなに原子炉を造っても果してその燃料が入るのかということであった。随って今度の旅行ではそのことばかり注意して見て来た。

カナダのビーバーロッジ鉱山では今日三%ないし四%の含有量のものを一日七百トン採掘し、現場で選鉱している。坑内に入って見ると、何ぞにもたって坑道が掘られ、膨大なものであった。来春には一日に二千トンを処理するという工事を更に拡張している。そのほかにも沢山鉱山があり、生産能力がぐんぐん増しているので一応安心したのである。

放射能の懸念もないのだから、日本でも燃料公社でこれを入れて精錬することを本気でやるべきだと原子力委員会でも説明した。

アメリカのコロラド流域でもどんどん増産されている。

動力炉の比較

大西定彦氏

ボイリング・ウォーター・マインターは、直接型で熱効率がよく容量も小さくて済むなど特長があるが、リアクター内部で水と蒸気と混合する点に不安定がある。

プレッシャーライズド・リアクターはガスクールに比べて熱効率はよいが、熱交換器のないボイリング・ウォーター・リアクターに比べれば悪くなる。しかし運転が非常に安定される。欠点としては圧力が高く、構造が面倒で、熱効率を十分に上げ得ない。

ガスクールのリアクターでは、ガスを使用し、そのガスの圧力が三気圧ないし高くしても八気圧程度のものだから、割合に低圧の形でできて、加熱に対する化学作用その他が非常に安定している。ほとんど構造が簡単であるから最もやりよいものである。欠点としてはワン・ユニットを小さくできない。

原子力と資金

小林中氏

原子力発電には膨大な資金がいるので、日本のような経済の小さい国では欧州原子力共同体のような東南アジアとかいう面の大きなグループの上に立って考えて行くことが望ましいのではないか。

かく膨大な資金が必要とされる故に、私共はできるだけムダのない方法を講じて、政府当局、学者、業界団体との関係者が緊密な一本の気持で原子力産業を推進開拓しているのを見たが、われわれもこうした先進諸国の民族的精神を十分に取り入れて、大きく国の観点から相協力すべきである。

国内の原子力産業の受け入れ方もそれぞれ進っている。日本人が国内体制をどう進むべきか、技術の習得、学者の参加、関係業者の参加状態、特に原子力産業の将来の発展を考えると、資金の面に特に配慮を要する。将来の長い目における日本の原子力発展の道を、当初において誤まらないような計画を総合化しておく必要がある。

燃料心配なし

久留島秀三郎氏

原子力の問題が非常に大きくなって来ると共に、私が一番心配したのは、日本でそんなに原子炉を造っても果してその燃料が入るのかということであった。随って今度の旅行ではそのことばかり注意して見て来た。

カナダのビーバーロッジ鉱山では今日三%ないし四%の含有量のものを一日七百トン採掘し、現場で選鉱している。坑内に入って見ると、何ぞにもたって坑道が掘られ、膨大なものであった。来春には一日に二千トンを処理するという工事を更に拡張している。そのほかにも沢山鉱山があり、生産能力がぐんぐん増しているので一応安心したのである。

放射能の懸念もないのだから、日本でも燃料公社でこれを入れて精錬することを本気でやるべきだと原子力委員会でも説明した。

アメリカのコロラド流域でもどんどん増産されている。

動力炉の比較

大西定彦氏

ボイリング・ウォーター・マインターは、直接型で熱効率がよく容量も小さくて済むなど特長があるが、リアクター内部で水と蒸気と混合する点に不安定がある。

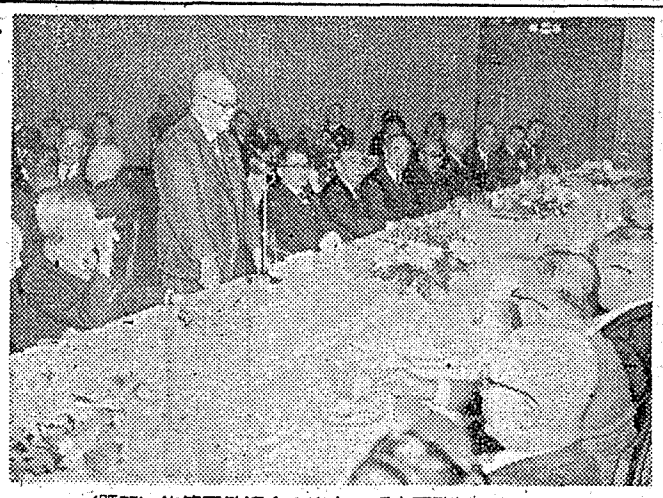
プレッシャーライズド・リアクターはガスクールに比べて熱効率はよいが、熱交換器のないボイリング・ウォーター・リアクターに比べれば悪くなる。しかし運転が非常に安定される。欠点としては圧力が高く、構造が面倒で、熱効率を十分に上げ得ない。

ガスクールのリアクターでは、ガスを使用し、そのガスの圧力が三気圧ないし高くしても八気圧程度のものだから、割合に低圧の形でできて、加熱に対する化学作用その他が非常に安定している。ほとんど構造が簡単であるから最もやりよいものである。欠点としてはワン・ユニットを小さくできない。

原子工業から

栗西清氏

原子力の産業を見ると、これが将来化学工業にどんな革命をもたらすだろうかというようなことを非常に感ずる。コバルト六〇などの使用も医薬工業には影響するだろうし、ウランの処理というような難物もある。簡単に詰めれば化学反応とはエナージー・トランスミッションに外ならぬから、原子力工業として発達する暁は、今までの化学工業が根底からくつがえらない限りもないと思う。そこで化学工業の発達の面から考えても何といっても原子炉を早く持って来ることが必要である。化学工業者の立場としても、他の工業その他の人々と、原子力産業の一環としてこの化学工業の分野を担って、早く日本に原子炉のいいものを組立て、あるいは改良進歩させて、その平和利用により、人類福祉に貢献することが任務ではないかと感じて来た。



（既報）使節団歓迎会の席上で正力国務相のあいさつ

平和利用に飛躍的な進展を示した一九五六年の原子力界を顧る（下）

国際機関規約会議

産業使節団欧米に出発

九月

▽四日　原子炉第二号発注決定

▽五日　仏、パリ郊外の原子力研究所事務所焼く。

▽六日　原子力開発利用長期基本計画内定。

▽七日　米原子力委、友好諸国のウラン探鉱援助表明。

▽九日　訪米原子力調査議員団出発。

▽十一日　原子力研究補助金三億二千万円の交付先決定。

▽十三日　原子力委、関西の原子炉開発協議。

▽十四日　米カリフォルニア大学で反中性子乳見を発表◇ソ連原子力捕鯨船計画発表。

▽十五日　石川原子力委員渡米◇日本原子力産業会議、二十機関に特許審査資料の整備要望書提出

▽十七日　日本原子力産業会議の原子力産業使節団出発。

▽二十日　原子力国際機関規約会議開会◇ソ連圏の原子核合同研究所総会開く。

▽二十四日　米・英・加原子力特許権の交換協定調印◇ソ連、米に原子力平和利用で新覚書提出。

▽二十五日　米フォーラム年次大会開かる（二十七日まで）◇九動力設備製造業者、原子力炉の国産促進要望書を十機関に提出。

▽二十六日　米フォーラム大会で、明春東京で日米原子力産業合同会議開催を発表。

▽二十七日　原子力産業使節団長大屋敦氏、米フォーラム大会で演説◇米フォーラムの幹部異動◇原子力委、原子炉開発援助の三千万ドル米に申入れ決定。

▽二十八日　米原子力委員長秘密条項緩和言明◇仏、初の原子力発電開始。

十月

ゲロン氏来日

コールダー・ホール操業

▽一日　仏原子力庁総合計画局長ゲロン氏来日◇英発電炉輸出に秘密条項なしと言明。

▽三日　原子力国際機関規約会議にスーダン参加。

▽四日　訪米原子力議員団帰国

▽六日　原子力の平和利用に関する米ソ交換文書公開。

▽八日　原子力平和利用委託費配分決定。

▽十一日　関西実験動力炉設置調査準備委員十八氏決る。

▽十三日　文相五大学に原子力科設置言明。

▽十五日　訪英原子力調査団出発◇米当局、外国の原子力計画に融資声明。

▽十七日　英のコールダー・ホール原子力発電所操業開始。

▽十九日　正力国務相、来年米・英と動力協定締結言明。

▽二十日　原子燃料公社、三吉、小鴨鉱山で始業式。

▽二十二日　日米原子力産業合同会議の開会を来年五月十三日と発表。

▽二十三日　日本、原子力国際機関準備委員国に当選◇米大統領原子力白書発表。

▽二十六日　日本、原子力国際機関規約に調印◇同機関正副委員長決定◇米大統領、同機関にウラン五千トン提供表明◇明年度の原子力関係予算要求額最終案決定。

十一月

米ウラン値下

原研一号炉第一陣横浜着

▽一日　原子力平和利用「アイソトープ展覧会」名古屋で開く、（十一日まで）

▽六日　秋の皇室園遊会に初めて原子力関係者招待さる。

▽十一日　東独政府、最初の原子力発電所建設着手発表◇米原子力委のバドゥーカ工場火災。

▽十三日　正力国務相、米ウェスチング社長の書簡発表。

▽十五日　衆参両院原子力合同委員会、原子燃料公社敷地として那珂湊市の米軍接収地返還要望申合せ。

▽十七日　米大統領、海外向けウランの値下げなど発表。

▽十九日　正力国務相、記者会見で訪英原子力調査団の報告発表

▽二十三日　原子力産業使節団長大屋氏ら帰る◇日米濃縮ウラン協定調印。

▽二十七日　訪英原子力調査団一本松副団長ら帰国。正力国務相に報告◇原子力研究所の原子炉部品第一号横浜到着◇北上山脈でわが国最大のウラン鉱発見発表。

▽二十八日　三重県立工試のアイソトープ研究所完工式。

▽二十九日　政府、カナダに天然ウラン鉱石の買付申入れを原子力委で発表。

十二月

日米濃縮ウラン協定

フォックス調査団報告発表

▽一日　準備委員会、関西の国立大原子炉第一号はスイミング・プール型と決定。

▽三日　日米濃縮ウラン協定衆院司決。

▽四日　米AMF、三菱グループと協力して日本最大の実験用原子炉建設発表。

▽五日　米、フォックス調査団報告書発表◇米アジア原子力センターに二千万ドル提供表明◇原子力船打合会明年五月ノルウエーのヤンセン氏招請内定。

▽九日　松前東海大学学長清水分校に原子炉設置言明。

▽十一日　原研原子炉据付開始

▽十二日　関西原子力懇談会発足◇日米濃縮ウラン協定参院司決

▽十三日　英、世界最大の原子力発電所の計画発表。

▽十四日　中部原子力懇談会発足。

教養　原子力講座

有沢広巳　石坂泰三　内田俊一　都築正男　藤山愛一郎　湯川秀樹　監修

＜全6巻の内容＞
①原子物理学入門
②同位元素とその応用
③原子炉と動力
④原子力と化学工業
⑤原子力と国際政治
⑥原子力経済入門
別巻・用語解説（二六〇円）

＜朝日新聞＞評
原子力の応用は、すでにあらゆる部門で工業化されている。
たとえば、トレ・サーとラジエイション・ソースの利用などは、原子力工業の将来に期待を抱かせる。部屋全体を電球のように輝かせるとか、原子灰から寿命無限の電池を作るという着想なども、もはや空想ではない。農業や水産にも利用され、真珠貝の養殖やプランクトンの研究・養殖などに応用されている。
本書は原子力の利用を具体的に知るために、挿図も豊富で、たいへん便利な本である。（12月9日・東京）

この講座は、原子物理学から原子力経済まで全六巻のシリーズに収めたものである。
その第一回配本である「同位元素とその応用」は、従来の解説書に終始しなかった、第一線の学者から新進の技術者まで十五人が筆をとっている。その割に統一がとれていて、同位元素についての知識は余すところなく述べており、信頼できる。挿図もなかなか気が利いており、弾けた装幀の割に内容は相当高い。
（11月19日・西部）

＜全6巻・各¥380＞
A5判函入上製定価

原子炉と動力
同位元素とその応用
＜第二回配本＞全国発売中！
＜第三回配本＞22日発売
＜第一回配本＞好評発売中

原子力経済入門
（内容見本各進呈）
中山書店
東京神田神保町2の24
電話（33）五一四六～八
振替東京一九六五六五

使節団帰国後のロンドン

コールダー・ホールに自信

原子力発電の推進に法案を提出

最近日本原子力産業会議の入手したロンドン情報は、使節団帰国後約半月の、同地の状況をつぶさに伝えているのでその一部を左に紹介する。

最近目につくことは、英国の原子力関係者がコールダー・ホールの運転開始以来、商業用原子力発電に非常に強い自信を持って来たことである。特に自分達が手がけて来た天然ウラン黒鉛型が、動力用炉としてこれほどまでに適しているという自信のようである。この空気は調査団の滞英中にも見られたが、その後もいろいろの機会にそれが現われているようだ。たとえば去る十一月二十二、二十三日、当地で行われたコールダー・ホール炉に関するシンポジウムでは、口角泡を飛ばしてのディスカッションというよりは、質問する方も講演する方も、いかにもわが世の春を寿ぐような気持で、和気アイアイとコールダー・ホールの、予想以上の好成績を祝っているといった風だったし、また最近公表された中央電力公社の原子力発電所に対する第三番目の候補地決定、あるいは十一月三十日ハーウェルで開かれた民間原子力業者を集めての研究会などを見ても、天然ウラン黒鉛型が予測したよりも動力用として適しているので、第二段階（液体ナトリウム黒鉛炉への切換えを少しおくらせて、まだ暫く天然ウラン・ガス冷却炉を発展させる方へ努力を続けるような傾向が明かに見られる。その努力の中心は燃料棒やキャンニングの改良を行って、ガス温度をますます高めることに置かれているようだ。

周知のように、ヒントン卿は日本にきたころから、異常なほどの熱意をこめて天然ウラン・ガス冷却型の存在価値を強調していたが、当地でも専門の科学者の中には、同型はプルトニウム生産用としてはともかく、動力用にはいかにも馬鹿デカくて不経済だという観念が、相当これまで存在していたらしいのが、最近はコールダー・ホールの実際の成績を見て、次第にある程度ヒントン流の考え方に近づいて来たのではないかと見られる兆しがある。ハーウェルの研究会でも、次の段階である液体ナトリウム冷却型の基礎研究はほとんど出来上っており、プロトタイプの炉に近く着手できる態勢まで来ているのだが、ガス冷却炉の実情に鑑み、液体冷却炉の建設を一応ペンディングして、ガス冷却炉改良の方へ暫く努力を向けるというようなことが報道されている。

また十一月二十八日には議会に電力再編成のための法案が提出されたが、これによれば一九五八年までに中央電力公社を廃止し、新たに発電のみを担当する、中央発電庁と電力行政の監督機関としての電力審議会を設けることになっている。こうして発電は発電オンリイにし、これに原子力発電計画の推進を、責任をもって実施させようというのがねらいのようで、この中央発電庁には原子力公社からも理事が参加することになろうと伝えられている。

一号炉の据付始まる

原研・六月試運転の予定

日本原子力研究所で茨城県東海村に建設する、湯わかし型実験炉の据付作業がいよいよ十二月十一日開始された。部品第一便の蒸花丸はロスアンゼルスから、反射台の取付台、ガンマ線照射孔、鋼鉄製レフレクターなどを積んで、十一月二十七日夜横浜に帰港、この部品は十二月五日東海村に着いた。

一方これが全般的な技術監督のため、ノース・アメリカン航空会社からロバーツ・スチュアート技師が六日午前零時羽田着のパン・アメリカン機で来日、原研並びに関係方面と打合せを終って十日東海村に到着した。

十一日は午後一時から第一倉庫に格納してあった六個の荷物を、スチュアート技師、久布白理事、能美工事課長、平田技師、丸紅の原子力部員などが立会って点検を行い、同三時過ぎ引渡しの手続きを終り、直ちに設置作業に取りかかり、据付け場所の精密な測量を始めたものである。

第二便、炉の中心部は一月八日第三便、炉の本体は二月上旬ごろ到着し、三月中に完成、六月には早くも世紀の火が点ぜられる。（写真は既報「原子力国内事情」編集連絡会の東海村見学―左から三人目が久布白理事）

カナダのウラン鉱買付け

大使館一本で交渉

当局・産業会議に依頼状

十一月二十九日の原子力委員会で行われた報告によって、政府はカナダ政府に対し、研究用として品位五％以上のウラン鉱十トン及び天然ウランの買付けを正式に申し入れたことを明かにした。なおカナダからのウラン鉱輸入については、わが貿易商社でも個別に交渉しているものが多数あるが、今後は専ら在カナダ大使館を通じるルート一本で交渉することになり十一月二十九日付で原子力局より日本原子力産業会議にあてて依頼状が到着したが、この内容は次のとおりである。

カナダのウラン鉱石輸入に関する件に関し、在加日本大使館から外務省経由の連絡によれば、カナダ原子力会社は最近日本商社よりウラン鉱石購入について種々の問合せを受け困惑していたところ、今般同会社の要請により、わが大使館とも打合せの結果、今後本件照会は同会社に直接あてず、すべて在加日本大使館を通ずることとなった。以上の主旨を関係商社へ周知方煩わしたい。

右につき、先般使節団長として欧米訪問の途次カナダに立寄り、同国のウラン事情をつぶさに視察した、日本原子力産業会議の大屋副会長は次のように語った。

「わたくし共がカナダに行ったまず自国の原子力開発に何らかの利益を受けるように期待しているので、当面の事業はこれら各国人の教育、訓練に集中することが望ましい、としている。

総数一千名を必要とする規模の設備

中心となる研究所は二万五千平方米の建物で、高速中性子実験炉を設置する出力七千キロワット程度の発電炉を発足二、三年後に据付ける、高熱研究所、病院、医学研究所、農業研究所などを第二年度ごろから建設する、などの計画が盛られて、人員は当初二百二十三名（専門家、百四、教育、訓練の対策となる学生百八十五名と共に総数一千名を必要としている。そして所長のもとに、教育、情報、自然科学、技術運営、技術開発、医学、農業科学、経営管理、公共事業の部門にそれぞれ部長をおき、その上に部門別補佐員と理事をすえる。理事長は別に運営部をもって万全を期することになっている。

この報告書ではさらに、センターの発足に当って、日本、インドなどから若干の学者、技術者の供給はできるが、これではとても足りないので、建設並びに運営に当って専門技術者の不足が問題となる当分機関要員は西欧諸国、

経済事情の特殊な条件で農業に関心

センターの運営が軌道に乗るまでは、米国は技術者、建設・運営資金、資材の援助をするが、センターとコロンボ計画参加諸国との関係は、あくまで関係各国の協議によって決定、承認され、加盟各国が喜んでその運営、財政、人員などを負担し、誠心誠意協力するのでなければ、効果を期待できないとしている。

報告書の内容は以上のとおりであるが、この中で特に農業が取り上げられているのは、その経済の八〇％が農業によっているアジア諸国のこれ…

化学処理の委員会

原研・燃料再処理などで

日本原子力研究所では、近く燃料再処理および廃棄物処理委員会を設ける。これは同研究所で設置を予定されている国産原子炉に対する核燃料の再処理試験工場と、それに関連して必要な廃棄物処理場の設計、建設を行うには、種々の専門分野の知識技術を必要とし、ことに、わが国最初の化学工場であるところから、その機械、装置操作などに関して各方面の専門家の意見を集めて慎重に設計、試作する必要があるために設けるものである。なおさし当っての問題となっている研究室関係から出る放射性廃棄物処理についても検討する。

委員会には必要に応じて分科会を設けるが、現在までに次の委員が決定している。なおこのほかに、業界からも五名程度を委嘱するがその推薦方を日本原子力産業会議に依頼した。（五十音順）

◇学界　伊沢正実、今井美材、大山義年、梶崎千代利、斎藤信房、鈴木伸、広瀬孝六郎、矢木栄（他に冶金関係から一名）

◇原研　木村健二郎、胥木敏男、中井敏夫、山本寛

報告書の全文発表

アジア原子力センター　米・コロンボ会議に提出

十二月五日米国政府はアジア原子力センター設置のために約二千万ドルの支出用意があることを発表した。またこの建設計画としての五十ページにわたるフォックス調査団報告書の全文を発表した。米国政府は去る十一月五日同報告書の準備未了から、コロンボ計画会議参加国に、アジア原子力センターを議題から除くことを希望するの書面を送っていたが、このたび各省連絡会で承認されたため、同会議に提出されたものである。

アジア原子力センターの建設は可能

米国政府はアジアにおける対外政策を推進するため、原子力の平和利用を強く打ち出し、日本、インド、セイロン、ビルマ、韓国、タイ、フィリピンなどとそれぞ…

アジア原子力センター　米・コロンボ

子力協定を結んでいるが、一方マニラに設置するアジア原子力センターに強い関心を示していた。それがコロンボ会議の議題から除かれるということから、一時中止説まで伝わって、これに期待を寄せていた向に大きなショックを与えていたが、米国側の説明でもこの点に触れて、この誤解をときほぐす必要を痛感したとしている。

この報告書は、前記の通り五十ページに及ぶものであるが、その総論で、マニラにおけるアジア原子力センターの建設は可能であるとの結論を得たとしている。しかし人員は当初二百二十三名（専門家、百四、

親切第一
日産火災海上
社長　末松友衛
本社　東京・芝・田村町

石川氏の帰国

十八日朝羽田着

英国からの帰途再び米国に立寄った石川原子力委員、嶮峨根原研理事、法貴原子力局次長らは、十二月一日ワシントンからニューヨークに向い、五日ピッツバーグのウエスチングハウス本社で同社の技術陣と懇談、六日はシッピングポートに建設中の加圧水型六万キロワットの原子力発電所建設現場を視察して、同夜テネシー州ナッシヴィルに向った。

石川原子力委員の帰国は十六日アメリカ発、一路直航して十八日朝十時羽田着の日航機となる予定だが、嶮峨根原研理事はまだはっきりした日取りは不明で、大体二十九日ごろと見られている。また法貴原子力局次長は石川氏に二日おくれて二十日朝十時羽田着の日航機で帰国する。

「…際には都合悪くハウ通産相には会えなかったが、カナダ側の要人たち個々人の意見を聞いてみたところでは、ウラン鉱の日本輸出はみんな希望しているので極めて有望に感じて来た。カナダの核燃料資源は実に膨大なもので、あれを日本でも利用できることになったら、真に力強いと思う。輸入の形式については国際機関を通じて、というようなことになるかも知れないが、非常な期待が持てると考えている。」

高アルファパルプ・人絹パルプ・製紙パルプ
レーヨンステープル・スパンレーヨン糸
スパンレーヨン織物・化織毛布
洋紙・和紙・板紙
KRP
興國人絹パルプ
取締役社長　金井滋直
本社　東京都港区芝田村町1丁目1番地
支店　大阪・営業所　名古屋
工場　富山・佐伯・八代・富士・浦郡

原子力平和利用のための最高専門誌！【3号配本中】
ソウエト科学アカデミー編　原子エネルギー　日本語全訳版
責任監修
科研山崎研究室　浜田達二
電源開発原子力室　立花昭
隔月発行（年6刊）
B5判　9ポ横組上製　約150頁
定価　¥600　年間　¥3,200
2号主要目次
APS原子炉の物理特性の研究・APS原子炉の多グループ計算法・H.D.He及びC12の同位元素・熱中性子捕獲の際、チタン、鉄、燐素の原子核によつて放射されるガンマ線の研究他…
3号主要目次
ソヴエト原子力発電の将来について・熱中性子及びエピサーマル中性子の作用によりPu239の核分裂に放出される中性子数に就いて・天然ウラン、軽水型格子におけるPu239の相対的増倍係数の決定・ガス放電中に熱核反応を起させる可能性について・大電流パルス放電の研究・ガス中の放電に伴うX線・太陽電池・沃素法によるジルコニウム精練の研究・ハイドロピツチブレンドおよびウルキツト―水性ウラン酸北物群の新鉱物他論文15……
ソヴエト科学アカデミー編
応用化学　日本語版
好評発売中（月2刊）講読料　¥9,000
詳細見本呈
申込先
株式会社　アトム社
東京　神田小川町1－10
振替東京48410番
TEL.(25)8656―9・8650

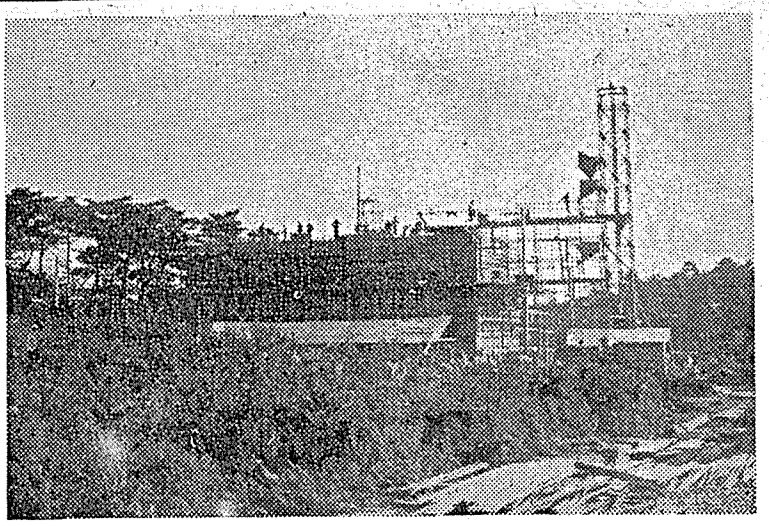
実習の時間割決る

第八回放射性同位元素講習会

日本放射性同位元素協会、日本原子力産業会議、日本原子力研究所の共同主催で来春一月二十一日から二週間開かれる第八回放射性同位元素講習会については前号で報道したが、この時間割は次のようにきまった。実習時間は毎日午前は九時から正午まで、午後は一時から五時までである。

実習時間割

◇一月二十一日電離箱による実験◇二十二日GM管計数装置による実験◇二十三日同◇二十四日シンチレーション・カウンターによる実験◇二十五日午前同、午後各種計器によるガンマ線の線量測定◇二十六日午前弱ベータ線源の自己吸収の測定用試料調製、午後オートラジオグラフィー◇二十七日休講◇二十八日午前ベータ線源の自己吸収の測定、午後オートラジオグラフィー◇二十九日（二十九日から三十一日まで化学実験）イオン交換樹脂法◇三十日共沈法◇三十一日溶媒抽出法◇二月一日希望者を三班に分けて見学または実習（㊀農研、㊁国立東二病院、㊂科研その他）◇二日磁害防止に関する講演、討論、映画、修了式、懇親会。



写真は落成近いファン・デ・グラフ建家＝茨城県東海村に建築中で、来年初めには運転を予定されている。

原子動力セミナー

第四回・本年最終の討論

ことし最終の、日本原子力産業会議第四回原子動力セミナーは、十二月四、五の両日産業会議会議室で開かれた。

第一日の四日は午前冶金グループ（司会東京電力竹内良市氏）午後物理グループ、化学グループ（司会電源開発川村泰治氏）第二日の五日は午前電気グループ（司会電力中央研究所高橋実氏）午後機械グループ、経済グループ（司会日立製作所島史朗氏）で、第一日十二科目、第二日十科目の討論を行った。（討論科目は原子力国内事情十二月号に掲載）

両日とも盛況を極め、終日熱心に討論をつづけたが、最近の傾向としては、テーマが次第に具体的な問題に発展して来ていることが注目される。例えば四日午後の化学グループで取り上げられた東大医学部付属病院吉沢康雄氏の「放射線生物学並びに遺伝学的影響についての問題」、五日午前の電気グループにおける安藤安二氏の「シュルツ原子炉制御に関する諸問題」についての紹介、午後機械グループ今井良雄氏の「コールダー・ホール原子力発電所の機械工学的特長」の論文紹介などを挙げることができる。

特にコールダー・ホール型原子力については、最近政府視察団や原子力産業会議の海外使節団の帰国報告などにより、その評価が問題とされている矢先でもあって、機械工学的特長についての詳細な報告は、時期的にも効果があったと思われる。

多数の出席を希望

最近一部に、セミナーに出席する顔触れが固定する傾向を見せていることに、不安を感じ、できるだけこれが是正を図るべきだとする考えがある。しかし一面専門部会は一般的なものではないから、この部会の性格上これは止むを得ないものであるとする向きもあり関係者の間で話題となっているが、なるべく多くの人々が出席して、広く意見の交換が行われることが望ましいのはもちろんである。できれば専門家ばかりでなく、マネージメント、その他一般の人々も出席して、研究の方向や運営についての遠慮のない助言をされると共に、現在の研究がどのように進展しているか、これに対して経営、教育、訓練などの面でどのように処して行く必要があるか、などについて参考にされることが希望されているが、産業会議の担当職員でもこれら意見を勘案し、潜新な空気を流入して、専門委員はますます専門的研究に没頭することができると共に、その他の出席者にも興味と実益とを十分に得られるよう、なるべく多くの人々が出席して研究を進めている。

理事長は田代氏

日本放射線高分子研究協会生る

十二月十日午前十一時かねて設立準備中だった財団法人日本放射線高分子研究協会の設立総会が、東京丸の内の東京会館で行われた。

最近世界各国で高エネルギー放射線を利用する高分子学の研究が急に盛んになっており、わが国化繊業界でも化学工業、パルプ、ゴム染色加工、機械、電気などの各界に呼びかけていたが、今度いよいよその実現を見たもので、当日は七十七社が参加し、佐々木原子力局長、黒川工業技術院長、小室通産省繊維局長、小谷東大理学部長も出席した。

同協会は高分子工業関係者が協力して政府の指導下に研究を行うが高分子原料及び製品の製造と加工について、高エネルギー放射線利用に関する基礎並びに応用研究と放射線源の取扱いや照射法の研究研究員や技術員の養成などをすることになっている。

差当り二億四千万円の基金をもって発足し、事務所は東京都中央区室町三の三に置き、研究所は関東と関西を予定しているが関西を先に着手し、具体的な詳細事項は追って理事会で決める。同日の会議では役員の決定までには至らなかったが、十四日理事長に田代茂樹氏を決定し、学界関係の理事七名を次のようにきめたがほかに関係業界から四名推薦されるはずである。なお同協会は十二月十四日付で設立の認可を受けた。

▽理事長　田代茂樹▽学界推薦理事　雨宮綾夫（東大）星野敏雄（東京工大）桜田一郎（京大）仁田勇（阪大）野津竜三郎（甲南大）篠原健一（科研）荒井溪吉（高分子学会）

三菱系・米社と提携

原研の実験炉建設に参加

十一月四日アメリカン・マシン・アンド・ファウンドリー会社のパタソン会長は、同社が日本原子力研究所との契約により、三菱系会社と提携して一万キロの重水型実験用原子炉を製作することになった旨発表した。

この原子炉は茨城県東海村に二号炉として建設されるCP－5型の心臓部である。

日本原子力産業会議

委員配布刊行物

◇原子力国内事情（第八号）毎月一回十五日発行。十二月号の主な内容は次のとおりである。

▽濃縮ウラン協定日米両文全文▽訪英原子力発電調査団の帰国と調査中間報告▽明年度原子力関係予算概算の組替えについて▽ブラッセル国際万国博覧会▽ウォーター・ボイラー型原子炉について▽学術会議シンポジウム開催計画▽動力協定研究報告▽原子力産業使節団の成果▽官庁民間原子力各機関の活動状況。

◇原子力海外事情（第十号）毎月一回発行。一月五日発行予定の主要内容は次のとおりである。

▽濃縮ウランの新価格表について▽原子力保険の現状▽イギリスの原子力と輸出市場▽国際原子力機関規約の採択にいたる経緯▽アメリカ原子力政界の喧騒

◇原子力資料（第十一号）十二月十七日発行。

▽加圧水型発電用原子炉に関する討論会（アメリカ原子力委員会の主催で行われたジッピングポート原子力発電所の技術的、経済的な問題に関する討論会の講演集）

◇原子力資料（第十二号）十二月に刊行の予定。

マジュール・ケロン氏（フランス原子力庁総合計画局長）講演集。（ざる十月来日したケロン氏のフランスの原子力平和利用についての講演及びセミナーの記録）

原子力五十問答 ⑮

ペグマタイト型は明治三十年代判明

問　日本の国内でも原子燃料鉱物は採掘できるか。採掘できるとすれば、どの地域に分布しているか。

答　わが国のウラン鉱、トリウム鉱等原子燃料鉱物の賦存については、本格的な調査が開始されてから間もない現在、未知の事項が多く、全国的な目途がつくには、今後三年以上の時間を要しよう。しかしながら、調査に全く未着手だった二年半前と現在とでは随分な違いが出て来ている。

日本にはペグマタイト型の鉱床は明治三十年代から存在が知られていたし、その中のフェルグソン石、サマルスキー石、東那石、苗木石、モナズ石等のウラン、トリウム鉱物についての鉱物学的または鉱物化学的の調査研究は、その時代から日本の科学者の手でコツコツ行われていた。

しかしながら世界的ウラン資源の大部分の鉱床タイプである鉱脈型鉱床およびコロラド高原型の水平層中の鉱床のようなものは、日本に全く知られておらず、せまい日本のほとんど隅々まで、地下資源開発の歴史は随分古いことであるし、その昔から今までに誰の眼にもふれなかったような変ったものがあろうとは考えられない。恐らくウラン鉱脈などは賦存しないに違いない、といわれていた。

原子燃料のできるまで（三）

特殊な鉱床タイプ

三年はかかる日本の調査

偶然発見した三吉鉱山の砒銅ウラン

一昨年夏のことであるが、岡山大学の逸見助教授は三吉鉱山を調査中、偶然砒銅ウラン鉱を発見した。この鉱物そのものも日本で始めての発見であると共に、金属鉱脈にウラン鉱物が賦存する日本で最初の例である点で重大な意義がある。即ちペグマタイト以外にはウラン鉱は出ない、といわれていた説がくつがえったのである。

三吉鉱山はタングステン鉱脈（微量の錫鉱、銅鉱を伴う）にウランがついて来た例であるが、第二の発見は鳥取県小鴨（旧金山）鉱山の金鉱脈であり、ここからは燐灰ウラン鉱が発見され、さらにこの地域一帯にかなりの面積を占めてウランの鉱化帯が賦存することが明かになり、燐銅ウラン鉱の鉱染した礫頭や、最近では銅、モリブテン石英脈にウラン鉱を伴うものが新しく発見された。

山宝鉱山の銅蛍石鉱脈は今年の発見

岡山県では三吉鉱山に次ぎ、その西北、成羽町に近い山宝鉱山の銅・蛍石鉱脈が発見されたのが本年初めであった。調査不十分であるが部分的にはウラン品位は比較的高い所がある。これに次ぎ本年夏、山口県宇部市の柴和鉱山のタングステン・錫鉛鉱脈にウラン含有が発見された。

以上のウラン鉱脈の経済価値、即ち開発に値するか否かの判定は原子燃料公社が着手した具体的の探鉱の進捗に伴って逐次判然する順序であるが、これ等の鉱脈は全部が西南日本の中国山脈の花崗岩地域に発見された鉱脈である。日本ではこの外に九州にも、中部日本にも、東北日本にも花崗岩が相当の面積に分布している。

最近北上山脈から含ウラン鉱脈発見

日本はもともと花崗岩に富んでいる国の一つであり花崗岩及びそれに接する変質古生層の結晶質岩の総面積は日本の全面積の約二割に達する。ウラン鉱脈が中国花崗岩に限って賦存するものか否かが大きな問題の一つであったが、極めて最近、東北日本の北上山脈の花崗岩地帯（中生層、古生層をまじえる結晶質岩地帯）にも含ウラン鉱脈が発見された。宮城県気仙沼市所在の鉱山である。ウラン資源としての価値は未だ全く未知数であるが、東北地方の花崗岩地域にも「有る」ということが実証された点に大きな意味がある。

打切りまぎわに発見した人形峠鉱床

昭和卅年十一月十三日午後五時半、既に日没後の暗闇の中を一台のジープが中国山脈の尾根に向って羊腸の坂路を登っていた。地質調査所のカー・ボーン調査班（ジープの中にシンチレーション・カウンターを装備した放射能測定探鉱班）である。鳥取県東部地域調査の仕事の最後の日の終業時直前のこと、岡山県との県境の人形峠（当時は無名の峠であった）への急坂をほとんど登りつめた所でメーターの針がピンと上った。調査員が早速とび下りて暗闇の中を手探りに押えた道路カッティングの礫頭が、今日の人形峠水成ウラン鉱床の末端部にあたる所であった。発見後この一年間に調査探鉱がすすみ、現在では主として東方の岡山県側に鉱床の延長が確認されつつある。

岡山県側の鉱床は古い湖底の水成岩

この鉱床は第三紀時代の後半にこの地方が準平原の地形を呈していた時代の、古い湖水の底にできた水成岩中のウラン鉱床であると考えられている。即ち周囲の花崗岩地域を流れ、ウランを溶解して含有していた水が湖水に流入し、湖底の土砂中に化学的に沈積したウランであるが、肉眼的には二次的に結晶した燐灰ウラン鉱が相当に集中している部分が見られる。つまり湖底堆積物である水平な地層中のウラン鉱床であり、かなりの厚さがあるから、低品位ではあるが採鉱の上では有利な点が多く要求に応じて早急開発が可能である。選鉱、製錬の上ではかなりの難点もあるようだが、ペグマタイト鉱物処理にくらべれば、はるかに条件がよい。三十四年度にできた国産原子炉第一号の所要天然ウラン量の少くとも一部を充たし得る国産ウラン鉱第一号と見られよう。

まず長期基本計画を……

炉の導入は新春早々の課題

本年初頭から論議の的になっていた動力炉導入問題は、産業使節団や政府の訪英調査団の帰国によってより現実性のある問題として再登場して来た。今日では一般的な時期尚早論は影が薄く、問題の焦点は実用炉として入れるか実験炉を入れるか、三十万といった大容量のものを入れるかどうか、英国以外に米国も輸入対象とするかどうかといった点にあるように見受けられる。今の空気から見るとこの問題は新年早々の関心事となることに疑いなく、いずれは慎重な検討の上決定せられることになろう。

しかし如何なる動力炉をいつどのようにして導入するかを、ただそれだけの問題として論ずることは余り意義がない。候補炉自体の良し悪しの検討の上正式に決定することとして、内定という形にとどめ従来のこととして、問題は将来の導入がわが国が採ろうとするスケジュールの上にどのような意義をもつかということでなければならない。それはともかくなおさず、原子力委員会が九月非公式ながら発表した「原子力開発利用長期基本計画」との関係如何ということである。

長期基本計画は原子力委員会が最も多くの月日をかけ、また最も熱心に審議の上とりまとめたものであるが、当時石川、藤岡、湯川各委員が海外出張中あるいは海外出張が予定されていたし、委員会参与や政府側からも海外調査におもむく予定者が多かったため、それらの人々の帰国後の新しい感覚でもう一度再検討の上、内定という形にとどめ従かれたものである。動力炉導入の論議は先ずこの長期基本計画の再検討を行い、これを確定した上でその計画に沿って考えられなければならないと思う。

それについても想い起すのは私が産業使節団に加わってドイツを訪問したときのことである。原子力省次官BALKE氏のあいさつにもあったが、ドイツは最近まで原子力関係の研究も禁じられ、十五年の立遅れた立場にあるが、一方エネルギーの不足は原子力による発電を急務としており、そのためには先進国の協力によってそのおくれを取戻す必要があり、イギリスからもアメリカからも動力実験炉を導入すべく真剣に検討しているとのことで、ただ不幸にもドイツ国内ではウラン資源に乏しく、将来の方向を天然ウランによるか濃縮ウランによるか決めかねているなどの話を聞くと、まるで日本とそっくりのような気がした。しかしライン・ウエスト電力会社を訪問したときも、同社のマンデル博士の代理ははっきりといっていた「わが社では独力で実験動力炉を輸入するが、米英の七社から見積りが来ている。

それは将来ドイツの力で動力炉を作る目的のために輸入するのであって、基礎的な研究でも工業水準でもドイツはこれを果す十分な自信をもっている。日本も全く同様と思う」と。

私は日本の動力炉問題もこうした気魄と将来にあたる計画の上に立って慎重に検討されることを期待してやまない。（島村武久）